HONDA

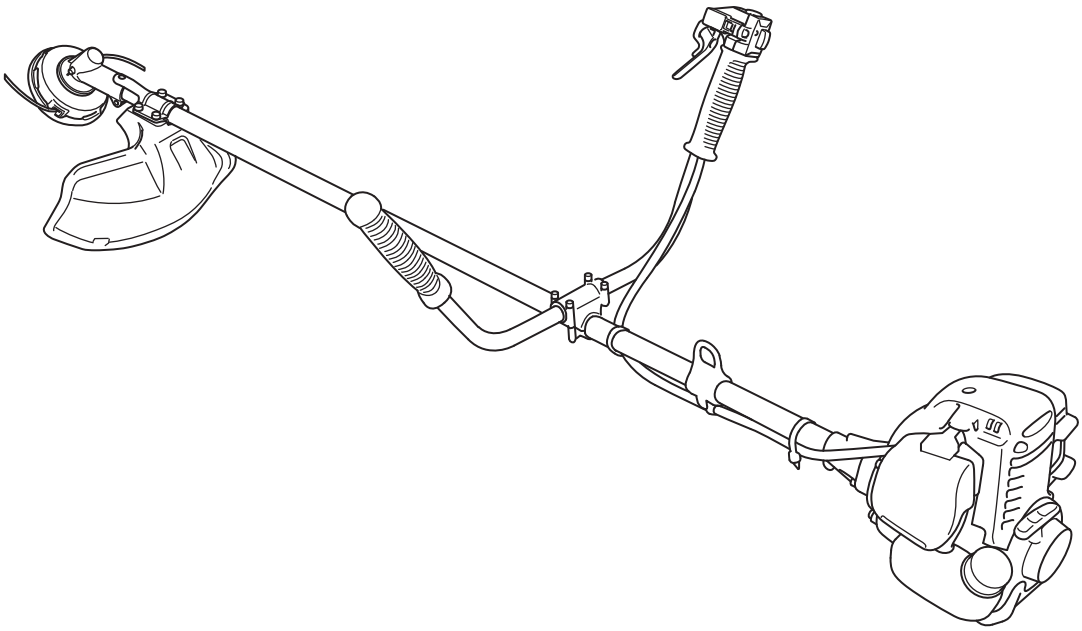
汎 用 製 品

刈払機

UMK435

ナイロンコードカッター仕様

取扱説明書



お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

はじめてご使用になる前に、同梱部品の初期組付けが必要です。
・初期組付けは、「同梱部品の組付けかた」を参照願います。(62頁)

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

● 本機は、ガソリン・4ストロークエンジンつき刈払機です。次表の用途区分に合せ使用してください。枝打ち作業には、使用しないでください。

機種（タイプ）	ハンドル形式	本機の用途区分
UMK435（UTJT）	U字ハンドル	草刈用：背丈の低い雑草に使用してください。

● 本機に付属しているナイロンコードカッターは、次表のように設定されています。ナイロンコードカッターは、それぞれの用途区分に従って使用してください。

機種（タイプ）	設定ナイロンコードカッターの仕様	本機の用途区分
UMK435（UTJT）	直径444 mm ナイロンラインヘッド B5	草刈用：背丈の低い雑草に使用してください。

ナイロンコードカッターは、本機に設定されたものを使用してください。設定以外のナイロンコードカッターは、使用しないでください。
設定以外のナイロンコードカッターは、本機に適合しない場合があり、思わぬ事故の原因となることがあります。

● 本機は、同梱部品の初期組付けが必要です。ご使用前に組付けてください。
（同梱部品の組付けかた：62頁参照）

本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

は　じ　め　に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた刈払機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。本機を運転する前に、この取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

- 本機を操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくために
これだけはぜひ守りましょう 3
　安全ラベル 12

サービスと保証について 14

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 15
　各部の名称 15
　エンジンスイッチ 17
　始動グリップ 17
　チョークレバー 17
　スロットル操作装置 18
　肩掛けバンド 19
　緊急離脱レバー 20
　ナイロンコードカッター、飛散防護カバー ... 20

エンジンをかける前に点検しましょう 21
　燃料の点検・補給 22
　エアクリーナーの点検 23
　エンジンオイルの点検・補給 24
　スロットルトリガーの点検 25
　スロットルワイヤーの点検 25
　緊急離脱レバーの点検 25
　ギアケース、ナイロンコードカッターの
　点検 26
　飛散防護カバーの点検 29
　各締付け部の点検 29

エンジンのかけかた・とめかた 30
　エンジンのかけかた 30
　エンジンのとめかた 32
　エンジンがかかりにくいときは 33

刈払作業のしかた 34
　本機の保持位置の調整 34
　基本的な操作 35
　ナイロンコードの送り出しかた 36

定期手入れを行いましょう 37
　定期点検整備項目 37

点検・整備 38
　エンジンオイルの交換 38
　エアクリーナーの清掃 40
　点火プラグの点検・調整・交換 41
　スロットルの調整 42
　燃料チューブの点検 43
　燃料フィルターの清掃 43
　燃料タンクの清掃 44
　エンジン冷却フィンの点検・清掃 44
　ナイロンコードカッターの交換 45
　　≪ナイロンコードカッターの取外しかた≫... 45
　　≪ナイロンコードカッターの取付けかた≫... 48
　ナイロンコードの交換 52
　　≪スプールの取外しかた≫..... 52
　　≪ナイロンコードの巻付けかた≫..... 54
　　≪スプールの取付けかた≫..... 55

長期間使用しないときの手入れ 57

故障のときは 59

主要諸元 60

同梱部品の組付けかた 62
　飛散防護カバーの組付け 63
　ナイロンコードカッターの組付け 63
　U字ハンドルの組付け 64

これだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解のうえ操作してください。
- 作業の前に作業範囲から棒、大きな石、針金、ガラスなどを取除いてください。
- 本機を枝打ち作業に使用しないでください。
- ナイロンコードカッターは、その用途区分に従って使用してください。
  (ナイロンコードカッターの用途区分は、表紙の裏側を参照)
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
  また、緊急時、本機を身体からすばやく離すため、緊急離脱レバーの使用方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検・整備を必ず行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
  ナイロンコードカッターについては、確実に取付けられていること、損傷がないことを確認してください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
  飛散防護カバーは、回転部からの飛散物が作業者に飛来しないようにするものです。飛散防護カバーを取外したり、正しい位置に取付けない状態で本機を使用しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
  ナイロンコードカッターは、本機に設定されたものを使用してください。設定以外のナイロンコードカッターは、本機に適合しない場合があり、思わぬ事故の原因となることがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などを近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベルを超えないように補給し、燃料タンクキャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取り、良く乾かしてからエンジンを始動してください。
- 燃料を補給後、エンジンを始動する場合、燃料を補給した場所から3m以上離れてください。
- 屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは、本機を使用しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 急傾斜地では本機を使用しないでください。急傾斜地はすべりやすく、転倒するおそれがあります。
- 飛来物や衝撃による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
- 本機を持ち運ぶときは、エンジンを停止し、ナイロンコードカッターの回転が止まったことを確認してください。

警告

● 服装について

長袖、長ズボンで身体に合った作業着を着用してください。作業着は、ボタンやファスナを確実に閉じてください。また、裾じまり、袖じまりをよくしてください。

さらに、腕カバーを着用してください。

ヒモのついた服、だぶだぶの服、ネクタイ、ネックレスなどは、着用しないでください。本機や雑草などにからまる原因となります。

髪の長い人は、髪を肩より上でまとめてください。

● 保護具について

・保護メガネ（ゴーグル）

回転部から飛んでくる物から目を保護するため、保護メガネを着用してください。

・保護帽（ヘルメット）

頭上の木の枝や、落下物から頭を保護するため、保護帽を着用してください。

・フェイスシールド

飛来物や飛散物から顔を保護するため、フェイスシールドを着用してください。

・耳覆い（イヤーマフ）・耳栓

騒音から聴力を保護するため、耳覆いや耳栓などの聴力保護具を着用してください。

・防振手袋

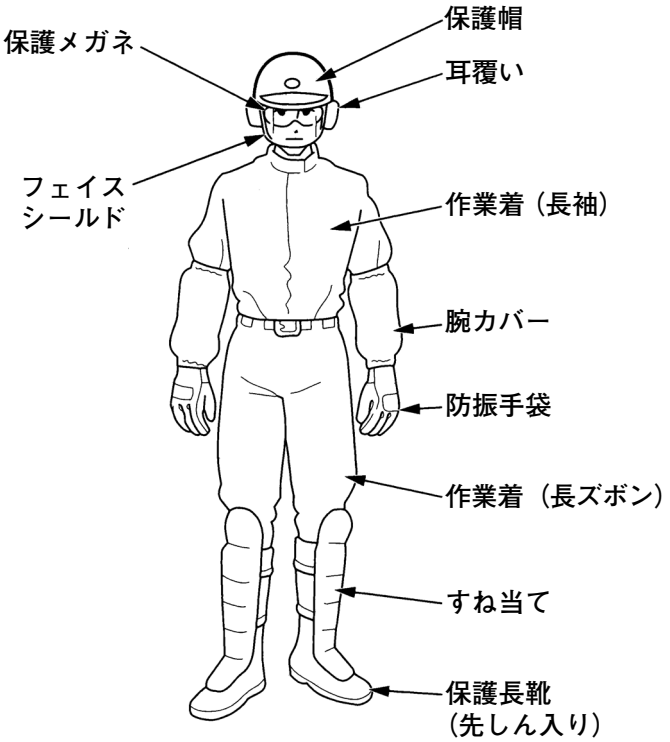
手の保護のため、防振手袋を着用してください。

・保護長靴

回転部から飛んでくる物から足を保護するため、底に滑り止めのついた保護長靴（先しん入り）を着用してください。作業靴（先しん入り）を着用する場合、すね当てを併用してください。

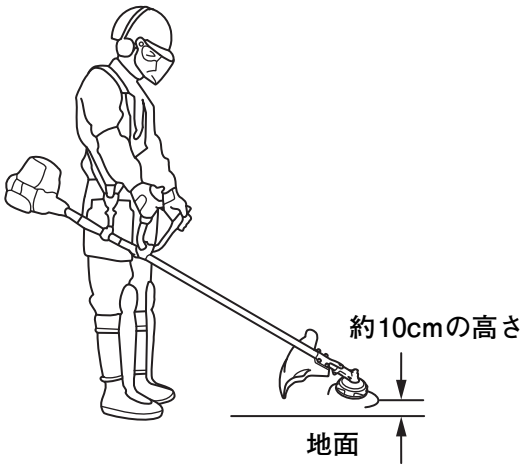
・防塵マスク

アレルギー性鼻炎（花粉症）などの症状が出やすい人は、花粉の吸い込みを減らすため、薬局などで売っている使い捨て防塵マスクの着用をおすすめします。



警告

- 本機の保持位置を調整してください。
  本機は肩掛けバンドに取付け、身体の右側に保持します。調整はエンジンを停止した状態で、肩掛けバンドの長さを変えて行います。ナイロンコードカッターが地面から約10cmの高さになるように調整してください。
  極端に身長の高い人は、本機を正しい位置に保持できない場合があります。ナイロンコードカッターに足がとどく場合、本機を使用しないでください。
- 本機の前後バランスを確認してください。
  エンジンを停止した本機を正しい位置に保持し、ナイロンコードカッターを地面から約10cmの高さにします。次に両手をハンドルから離しハンドルにそえるようにして、ナイロンコードカッターの高さが大きく変化しないことを確認します。
  ナイロンコードカッター側が浮き上り、ヒザより高くなる場合は、調整が必要です。このままの状態で、本機を使用しないでください。

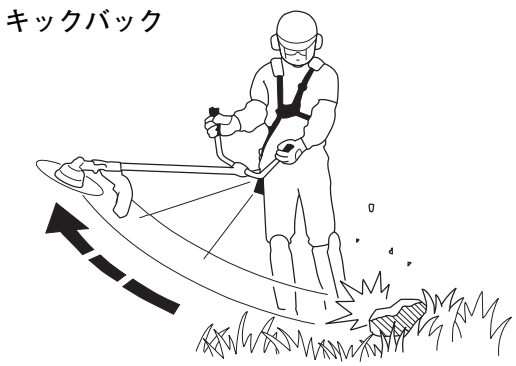


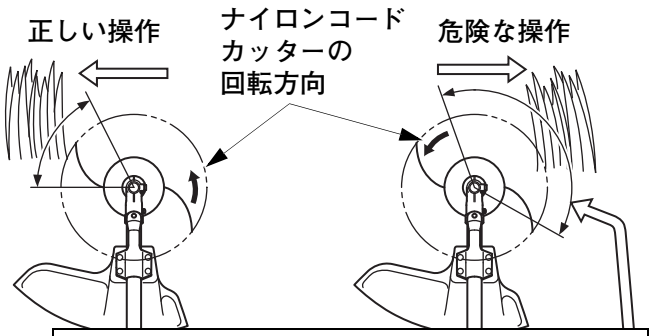
●作業中

- 作業者を中心に半径 15m 以内の範囲に人や動物を近づけないでください。事前に人や動物がいないことを確認し、近づいてきた場合エンジンを停止しナイロンコードカッターの回転を止めてください。
  作業を補助する人、協同作業を行う人も15m以上離れて作業してください。なお、事前にエンジン停止などの合図を決め、作業時に使用してください。
  回転するナイロンコードカッターに触れると大ケガをします。また、飛散物でケガをするおそれがあります。
- 作業中は、回転部をヒザより高く持ち上げないでください。
  回転部からの飛散物が目や顔に当たる可能性が高くなります。
- 本機が突然に異常な振動を起したら、ただちにエンジンを停止してください。突然の振動は、ナイロンコードカッターなどの損傷や、ネジのゆるみなどの故障が考えられます。
  故障の原因を調べ、修理するまでエンジンをかけないでください。
- ナイロンコードカッターに針金などがからまると、針金などがムチのように振り回されます。ただちにエンジンを停止し、針金などを取除いてください。
- 本機を地面に置く前に、エンジンを停止し、ナイロンコードカッターの回転が止まったことを確認してください。
  スロットルトリガーを戻し、エンジンをアイドリング状態にしても、直後はナイロンコードカッターが惰性で回転しています。
- スロットルトリガーを戻し、エンジンをアイドリング状態にしても、ナイロンコードカッターが回転しつづける場合は異常です。アイドリング回転数の調整が必要です。お買いあげ販売店にご相談ください。
- ナイロンコードカッターを地面にくい込ませないでください。石などが飛散し飛んでくるおそれがあります。

警告

- ナイロンコードカッターを石、樹木、杭、コンクリート構造物などの硬質固定物に接触させないでください。
  ナイロンコードカッターが硬質固定物などの障害物に接触した瞬間、回転部がはね返される、キックバックが起こります。キックバックが起こると、本機が思わぬ動きをするため、正常な操作ができなくなるおそれがあります。
  またナイロンコードカッターが損傷したり、障害物が砕けたりして、破片が飛散するおそれがあります。
- ナイロンコードカッターの動かし方は右から左に操作してください。逆に左から右へ操作するとキックバックにより危険な現象が起きます。この操作はしないでください。
- ナイロンコードカッターが障害物に接触した場合、ただちにエンジンを停止してください。ナイロンコードカッターの回転が止まった後、ナイロンコードカッターの損傷を点検してください。ナイロンコードカッターにヒビ、曲り、過熱による変色、極端な磨耗など損傷がある場合は、使用できません。
  ヒビの入ったナイロンコードカッターを使用すると、ナイロンコードカッターの破片が飛散するおそれがあります。
- 振動と冷えによる傷害について
  刈払機を操作する人の体質によっては、指にチクチク・ヒリヒリする痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなる症状が現われることがあります。これらの症状は、原因が振動と冷えに関係あるとされています。症状の現われる限度が未解明であるため、次の項目をお守りください。
  ・刈払機での作業時間を制限してください。
  1日の作業を刈払機を使用するものと、他の作業とを組合せ、振動を受ける時間を減らしてください。
  ・身体を温かく保ってください。特に手、手首、腕を温かくしてください。
  ・血行をよくするため、ひんぱんに休息をとり、腕の運動を行ってください。
  また作業時間内の喫煙は、やめてください。
  ・指に不快感、赤み、腫れが現われた場合や、指が白くなったり、指の感覚がなくなったことのある場合は、医師の診察を受けてください。





この範囲でナイロンコードカッターが硬いものに当たると、反動でナイロンコードカッターが運転者側（自分の方向）へはねかえされます。

- 反復作業による傷害について
  一定の反復する動きを長く続けると、反復作業による傷害のおそれが高くなります。傷害の原因を減らすため、次の項目をお守りください。
  ・手首を曲げたまま、伸ばしたまま、ひねったままの状態で作業を行わないでください。
  ・反復作業の影響を最小限にするため、定期的に休息をとってください。
  また反復作業を行うときは、ゆっくりとゆとりをもって作業してください。
  ・指、手、手首、腕にズキズキする痛みやマヒを感じた場合は、医師の診察を受けてください。
- （参考）厚生労働省では、作業者の健康管理のため次のような基準が設けられています。
  作業は連続3日を限度として

1回の連続作業時間	30分	以内
1回の連続作業後休憩	5分	以上
1日の作業時間	2時間	以内が望ましい
1週の作業日数	5日	以内
1月の作業時間	40時間	以内

警告

● 振動障害予防に必要な日振動ばく露量A (8)の算出方法

振動障害予防を考慮した作業計画を作成するために必要な日振動ばく露量A (8)の算出方法を記載します。

機械（ハンドル・グリップ）の振動レベル

周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値

使用する振動工具の「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」を振動工具の表示、取扱説明書、ホームページ等により把握してください。

周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値 $a=\sqrt{(a_x^2+a_y^2+a_z^2)}$

（注）ax、ay、azは、三方向（3軸）の周波数補正振動加速度実効値

1日の振動ばく露限界時間：

$$T_L=\frac{200}{a^2}\quad[\text{時間}]$$

日振動ばく露量：A (8)

「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」と1日あたりの振動ばく露時間から、次式により日振ばく露量A (8)を求めてください。

日振動ばく露量：A (8)$=a\times\sqrt{\frac{T}{8}}\quad[m/s^2]$

（注）a [m/s^2]は周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値、T〔時間〕は1日の振動ばく露時間

使用前の点検・整備について

製造時の振動レベルを劣化させないため、作業を開始する前に必ず本機各部の点検・整備を行い、異常がないことを確認してください。

・ナイロンコードカッターが破損している場合は釣り合いが悪く、振動を悪化させる原因となりますので新品と交換してください。

また次のような異常がある場合は、速やかに使用を中止し、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

・「振動が大きくなった」などの異常な振動を感じたとき

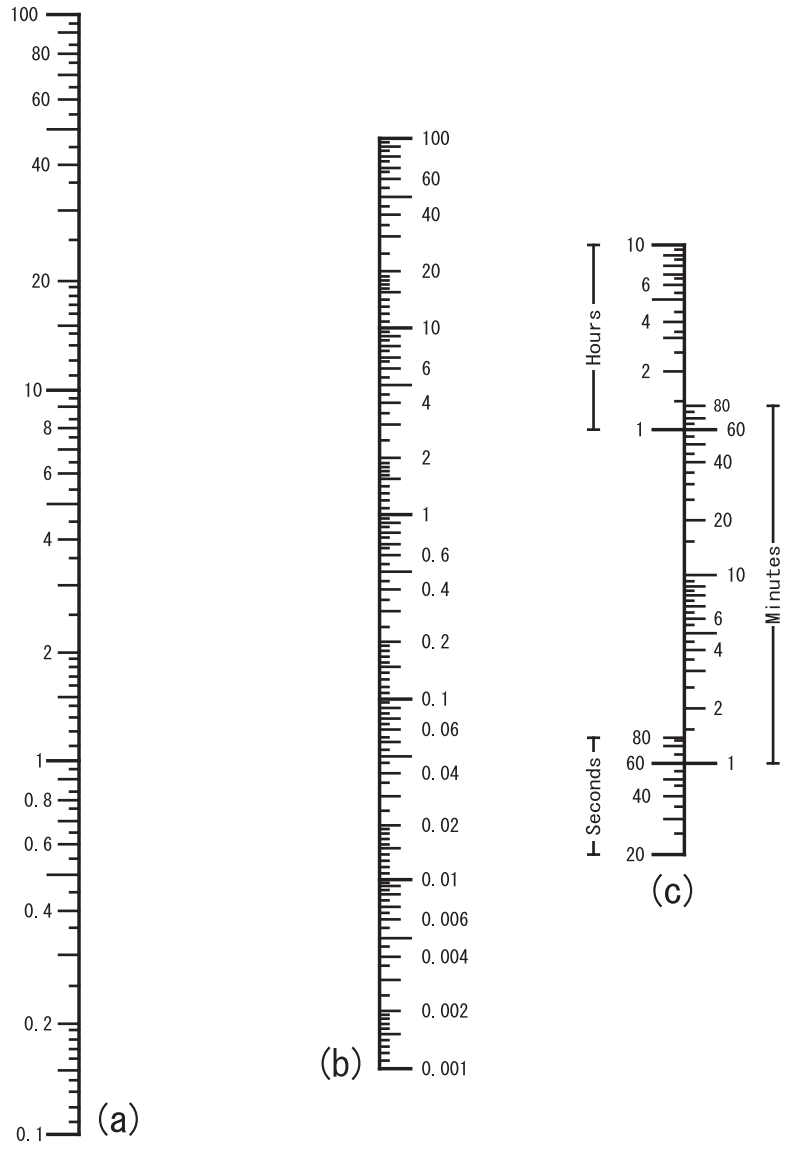
・ハンドル（左右）の変形、破損、取付け部のゆるみがあるとき

警告

日振動ばく露量A (8)の算出（ノモグラムを使用した算出）

日振動ばく露量A (8)は、下記のノモグラムからも求めることができます。

このノモグラムの使用方法は、(a) に「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」をプロットし、(c) に「振動ばく露時間」をプロットし、その2つの点を結ぶことにより (b) の「日振動ばく露量A (8)」を求めることができます。



ノモグラム

警告

日振動ばく露限界値及び日振動ばく露対策値

日振動ばく露量A (8)が、「日振動ばく露限界値」である5.0m/s^{2}を超えることがないよう振動ばく露時間の抑制、低振動の振動工具の選定等を行う必要があります。

さらに、日振動ばく露限界値（5.0m/s^2）を超えない場合であっても、「日振動ばく露対策値」である2.5/m/s^{2}を超える場合は、振動ばく露時間の抑制、低振動の振動工具の選定等に努める必要があります。

1日に複数の振動工具を使用する場合

1日に複数の振動工具を使用する場合、下表を利用して、個別の作業ごとの「振動ばく露量Ai (8)」を求め、最終的な「日振動ばく露量A (8)」を計算し、その振動ばく露時間が「日振動ばく露限界値（A (8)：5.0m/s^2)」及び「日振動ばく露対策値（A (8)：2.5m/s^2)」を超えるかが判断できます。

	個別の作業番号						合計	日振動ばく露量A (8)
	1	2	3	4	5	6		
Ai (8)							$\Sigma ai(8)^2$	$A(8)=\sqrt{\Sigma ai(8)^2}$
Ai (8)^2								

(1) ノモグラムを（8頁に掲載）に、個別の作業の周波数補正振動加速実効値の3軸合成量を（a)、振動ばく露時間を（c)、にプロットし、2つの点を結んで個別の振動ばく露量（b）Ai (8) を読み取り、上記の表に記入します。個々の作業がいくつもある場合は、同様の操作を繰り返し、Ai (8)を求めて上記の表に記載します。

(2) 個々の作業のA (8)の2乗を計算し、全ての作業別に値の合計（Σ Ai (8)^2）を求め、上記の表に記載します。

(3) (2) で求めた値の平方根（ $A(8)=\sqrt{\Sigma ai(8)^2}$ ）を求め、表に記載します。この値が、「日振動ばく露量A (8)」になります。

日振動ばく露量A (8)は「日振動ばく露量A (8)の計算テーブル」
(http://www.jaish.gr.jp/information/mhlw/nichishindo_bakuroryo.xls)
を使用して求めることができますのでご活用ください。

警告

振動ばく露時間など

日振動ばく露限界値（A (8)：5.0m/s^2）に対応した1日の振動ばく露時間（以下「振動ばく露限界時間」といいます。）が、2時間を超える場合は、当面、1日の振動ばく露時間を2時間以下としてください。
ただし、振動工具の点検・整備を、製造者又は輸入者が取扱説明書等で示した時期及び方法により実施するとともに、使用する個々の振動工具の「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」を、点検・整備の前後を含めて測定・算出している場合において、振動ばく露時間が当該測定・算出値の最大値に対応したものとなるときは、この限りではありません。なお、この場合であっても1日の振動ばく露時間を4時間以下とするのが望ましいところです。

振動値が把握できない場合

「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」が把握できない振動工具は、類似の振動工具の「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」を参考に振動ばく露限界時間を算出し、これが2時間を越える場合には、1日の振動ばく露時間を2時間以下のできる限り短時間としてください。

やむを得ず日振動ばく露限界値を超える場合

作業の性格上、同一の作業者が同一の作業現場で連続して作業を行なうことが不可欠である場合でかつ日振動ばく露限界値（A (8)：5.0m/s^2）を超える場合には、1週間の作業計画を作成した上で、振動ばく露量を1日8時間×5日（週40時間）として算出し、日振動ばく露量A (8)を5.0m/s^{2}以下とする1日の振動ばく露許容時間としてもやむを得ないこととしています。

警告

- 休憩などで運転を中断するときは、ナイロンコードカッターを下に向けて本機を水平に置いてください。
  気温が高いときに、燃料給油キャップが燃料に浸かった状態で放置すると、燃料タンク内の空気が膨張してキャップから燃料がにじみ出ることがあります。

●作業が終わったら

- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。
- 保管や運搬をする前に、燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。本機は火気のないところに保管してください。
  また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。

●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルを全て読んでからご使用ください。

ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

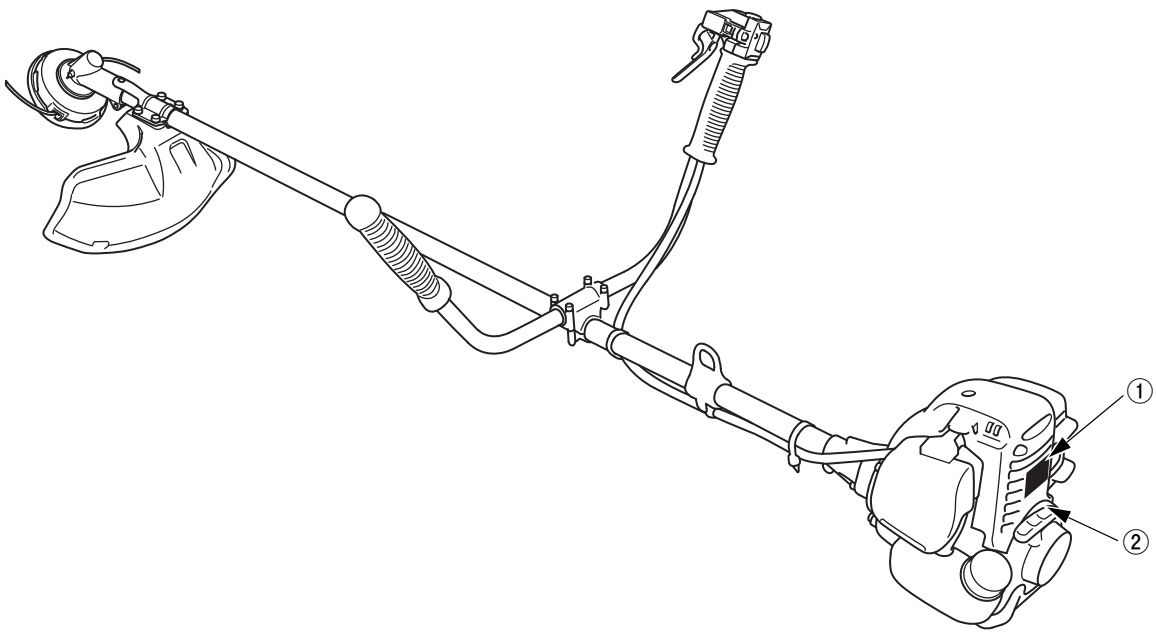
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

⚠ 警　告	
火気厳禁	火災や爆発により死傷するおそれがあるので、 ●給油時にはエンジンを停止すること。 ●給油口に火を近づけないこと。

貼付位置：①

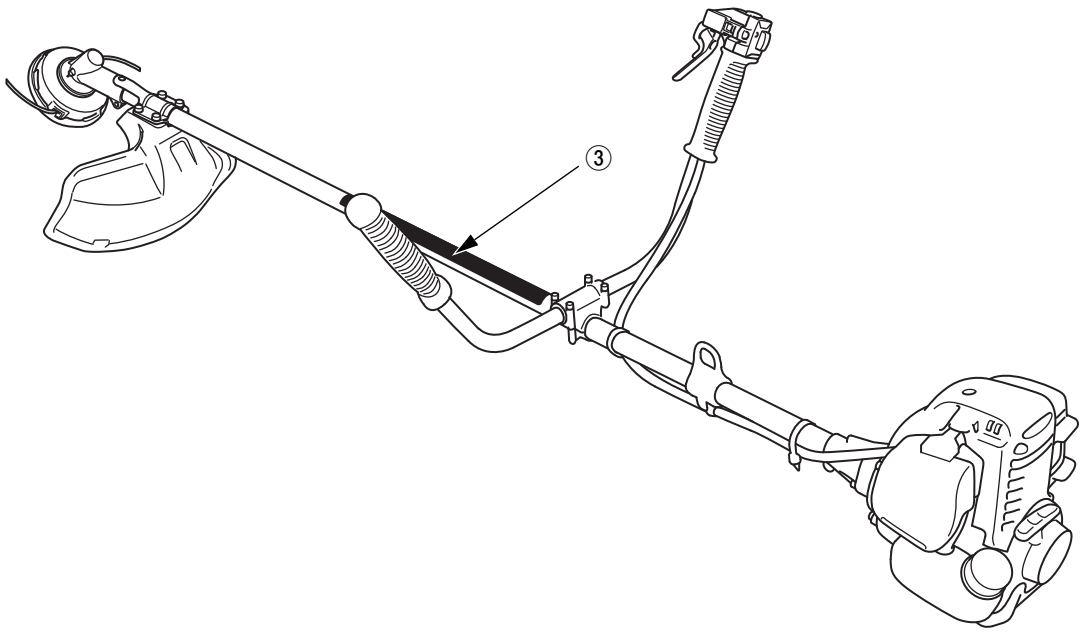
⚠ 高温注意

貼付位置：②




注　意
傷害事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
注　意
使用運転前に、必ずオイル点検のこと。
警　告
傷害事故防止のため、保護具を必ず着用すること。
警　告
刈刃からの飛散物によりケガをするおそれがあるので、人や動物を近づけないこと。
警　告
飛散防護カバーを取り外して使用すると死傷するおそれがあるので、必ず取り付けて作業すること。
警　告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
危　険
回転している刈刃にふれると死傷することがあるので、
●全周360°半径15m以内に人や動物を近づけないこと。
●刈刃に近づかないこと。

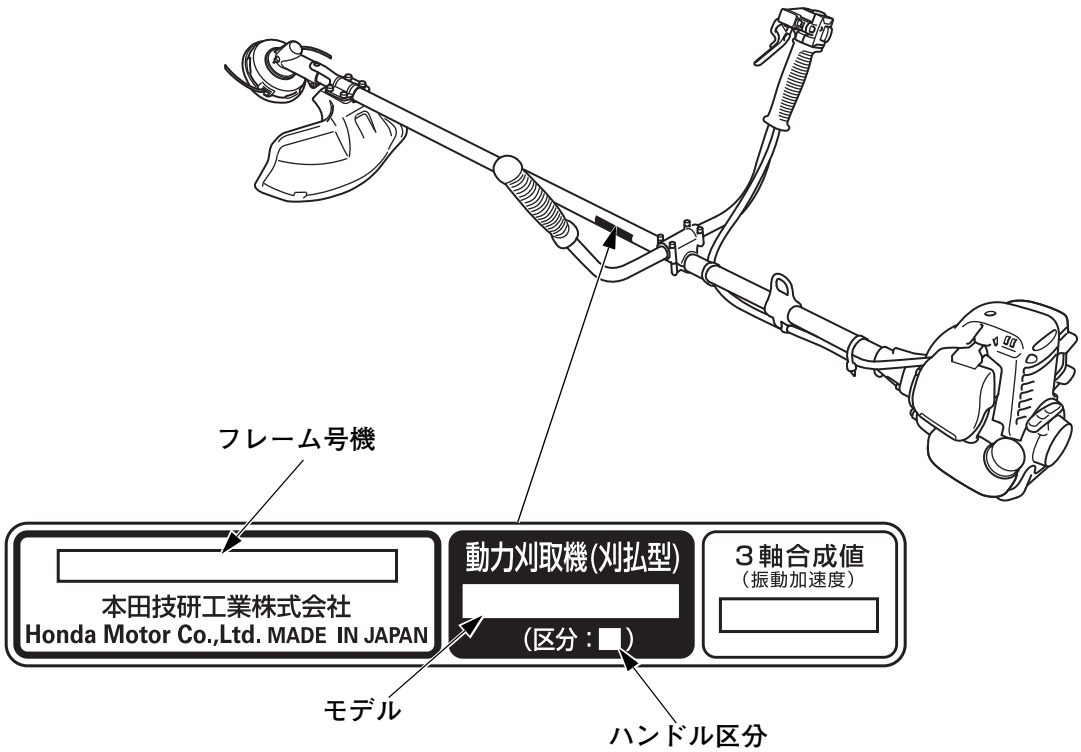
貼付位置：③


③

サ　ー　ビ　ス　と　保　証　に　つ　い　て

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

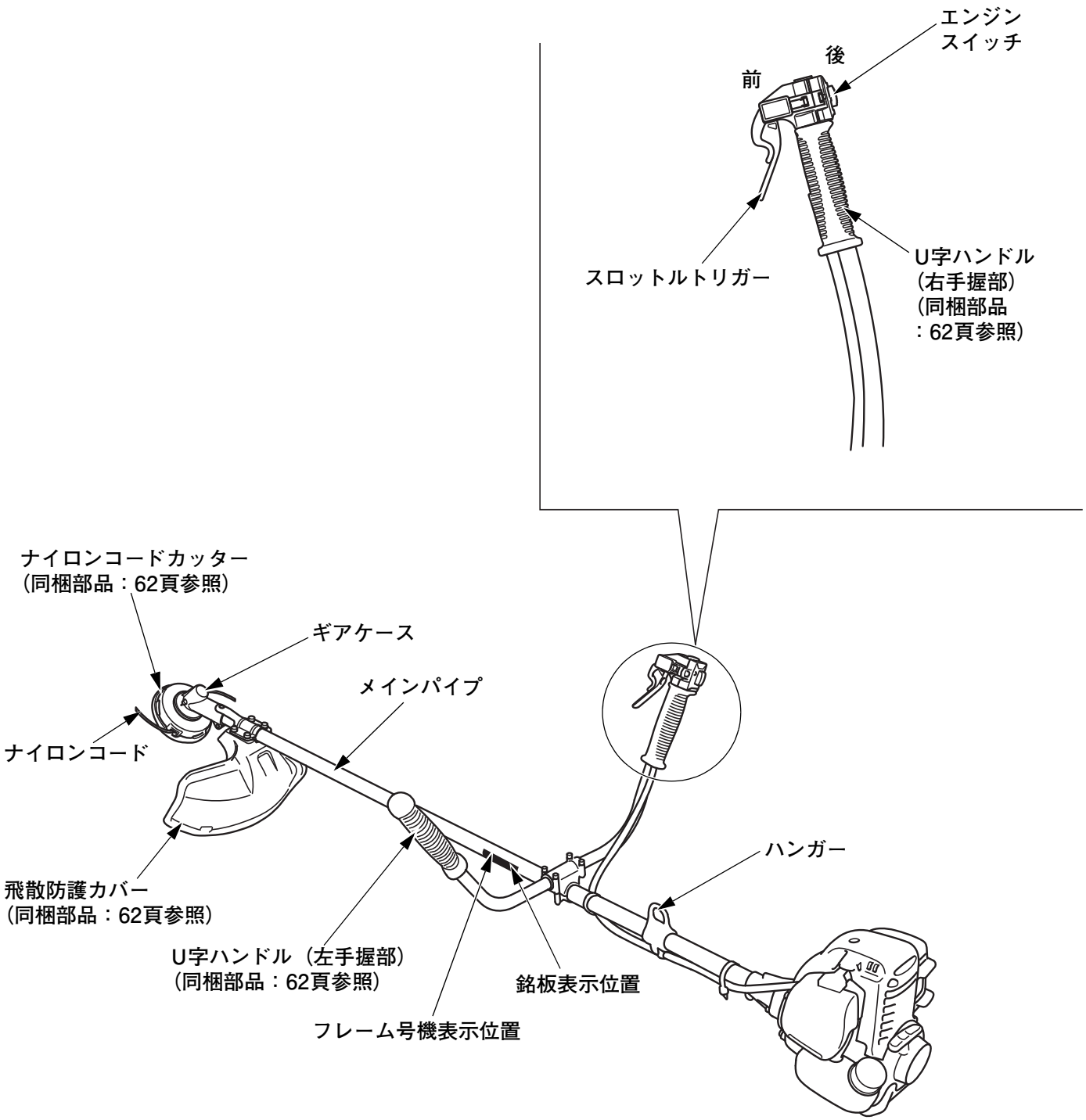
ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

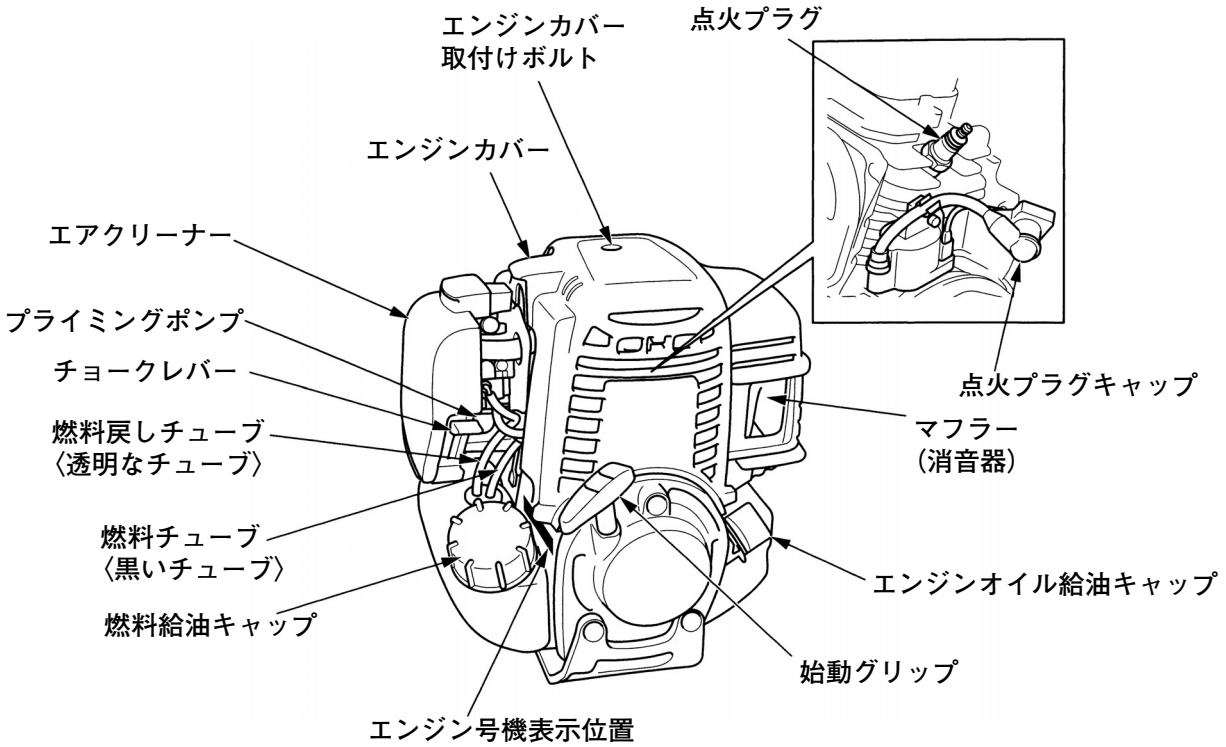


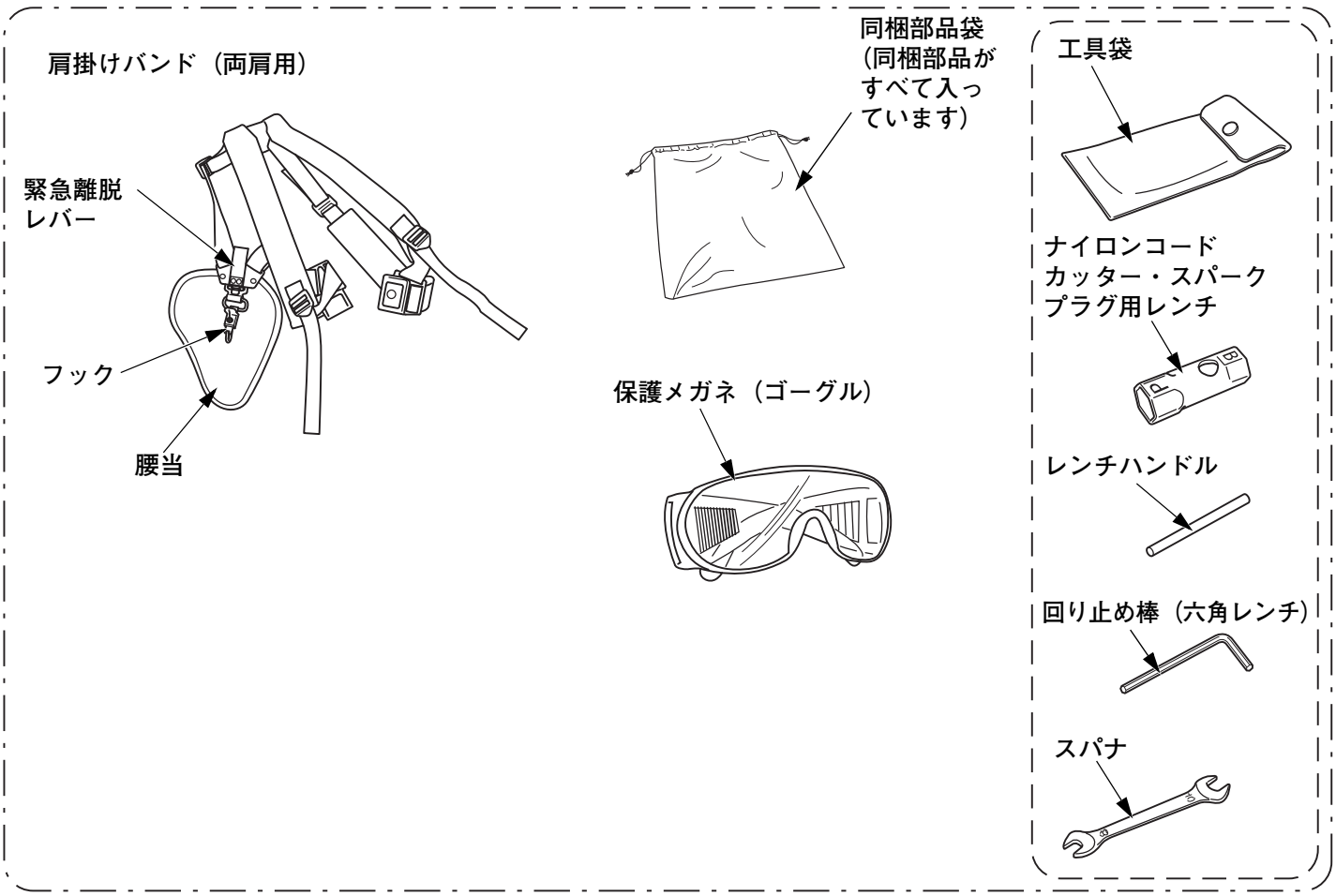
本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

各部の名称

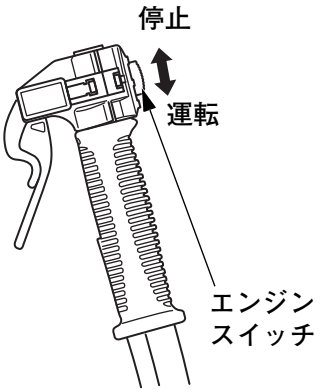



エンジンカバー
取付けボルト
点火プラグ
エンジンカバー
エアクリーナー
プライミングポンプ
チョークレバー
燃料戻しチューブ
〈透明なチューブ〉
燃料チューブ
〈黒いチューブ〉
燃料給油キャップ
点火プラグキャップ
マフラー
（消音器）
エンジンオイル給油キャップ
始動グリップ
エンジン号機表示位置


肩掛けバンド（両肩用）
緊急離脱
レバー
フック
腰当
同梱部品袋
（同梱部品が
すべて入っ
ています）
保護メガネ（ゴーグル）
工具袋
ナイロンコード
カッター・スパーク
プラグ用レンチ
レンチハンドル
回り止め棒（六角レンチ）
スパナ

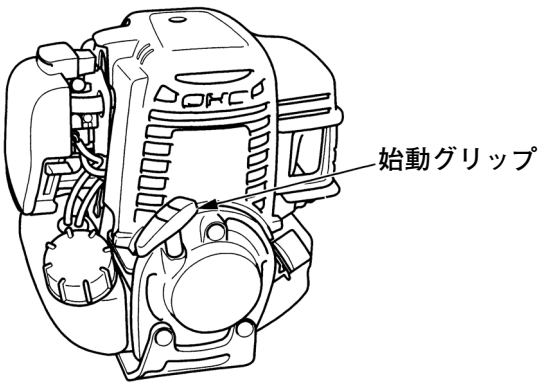
エンジンスイッチ

エンジンの運転、停止をするときに操作します。



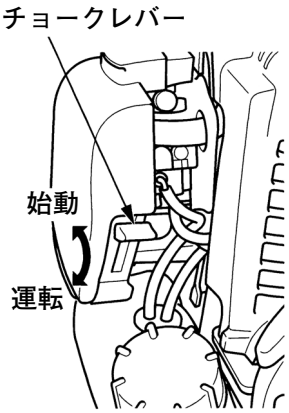
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



チョークレバー

始動時にエンジンが冷えているときにチョークレバーを " 始動 " の方向に操作します。



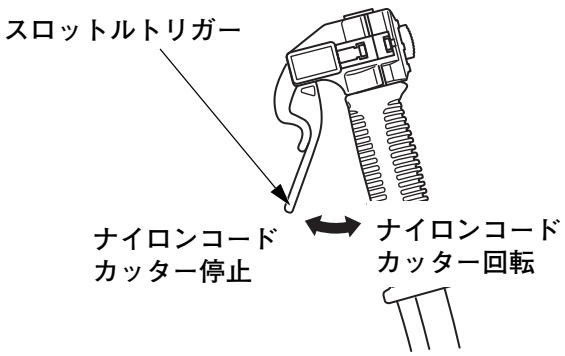
スロットル操作装置

エンジン回転を調整することで、ナイロンコードカッターの回転速度を調整するものです。

● スロットルトリガー

・スロットルトリガーを徐々に握ると、エンジン回転が速くなり、ナイロンコードカッターが回転し始めます。さらに、スロットルトリガーを握ると、エンジン回転と共にナイロンコードカッターの回転が速くなりトリガーをグリップと共に握ると設定された速度で保持されます。

・スロットルトリガーから手を離すと、エンジン回転が遅くなり、ナイロンコードカッターは惰性でしばらく回転した後、停止します。



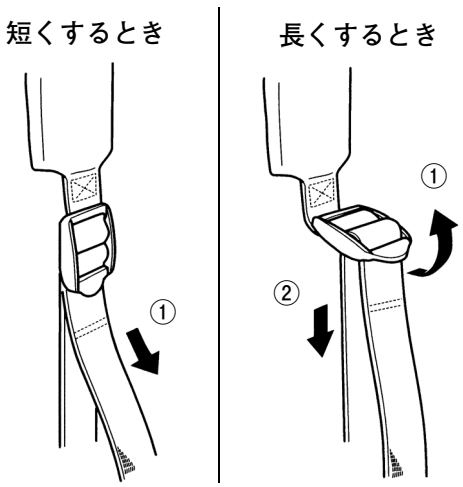
肩掛けバンド

肩掛けバンドは、腰当て部が身体の右側にくるように身につけます。

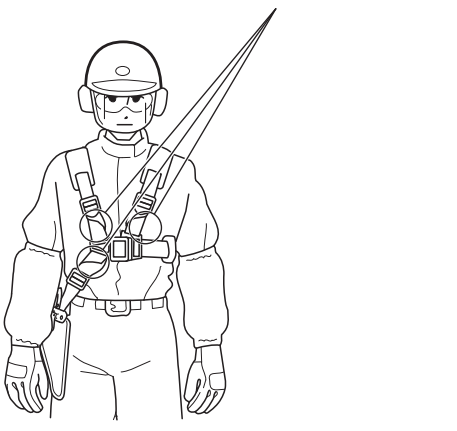
- バンド部がねじれていないことを確認してください。
- 両肩用は、バックルを身体の前側で、「カチッ」とクリック感があるまで、確実に止めます。
  外すときはバックルを押しながら、左右に引いてください。



- バンドの長さ調整は、図のように行ってください。
  （本機の保持位置調整は、34頁参照）

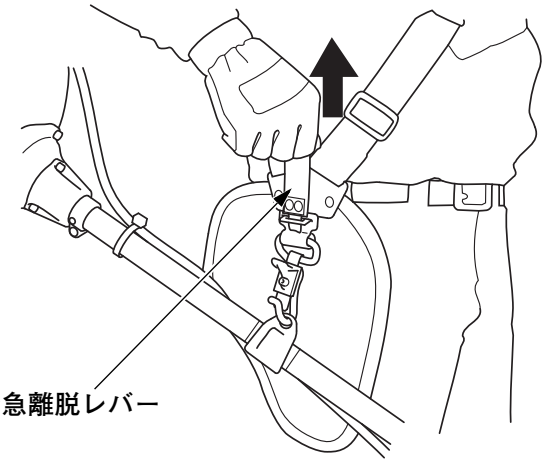


- バンドの先端部は、身体側に巻込み固定してください。



緊急離脱レバー

緊急時、本機を身体から離すためのものです。
緊急離脱レバーを上方に引くと、本機が肩掛けバンドから離れます。



ナイロンコードカッター、飛散防護カバー

ナイロンコードカッターは、本機の駆動軸に取付けられています。ナイロンコードカッターが回転することで、刈払作業を行うことができます。
ナイロンコードカッターは、「締付け強さ」を正しく行った状態で使用してください。
・「締付け強さ」は、ナイロンコードカッターを取付けるネジ部品の「締付け強さ」です。

● ナイロンコードカッターの切れ味が悪くなった場合、またはナイロンコードが消耗して短くなった場合は、ナイロンコードの送り出しを行ってください。ナイロンコードの送り出しは、ナイロンコードカッターが回転している状態で行います。

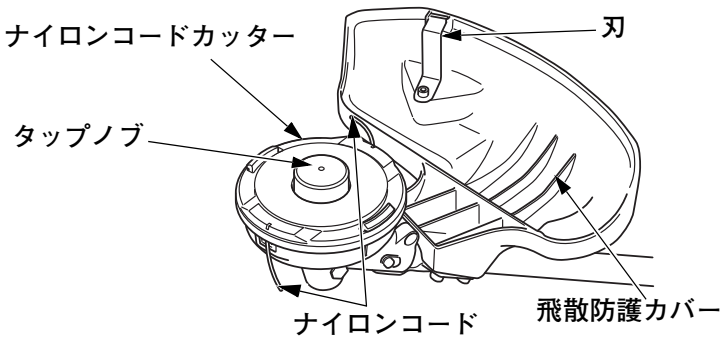
ナイロンコードの送り出しかたは、36頁を参照してください。

ナイロンコードカッターの交換は、45頁および48頁を参照してください。
・ナイロンコードカッターの取外しかたは、45頁を参照してください。
・ナイロンコードカッターの取付けかたは、48頁を参照してください。

ナイロンコードの交換は、52～56頁を参照してください。
・スプールの取外しかたは、52頁を参照してください。
・ナイロンコードの巻付けかたは、54頁を参照してください。
・スプールの取付けかたは、55頁を参照してください。

● 飛散防護カバーは、刈払作業時、回転部からの飛散物を後方に飛ばさないようにするためのカバーです。

● 飛散防護カバーの内側には、ナイロンコードを適切な長さに切断するための刃が取付けられています。



エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないようにエンジンスイッチが " 停止 " になっていることを確認してください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと、本機を損傷するばかりでなく、あなたや、あなたの回りの人に大ケガをさせるおそれがあります。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

エンジンをかける前に、次の点検を行ってください。
点検の結果、異常がある場合、エンジンをかける前に修理してください。ご自身で修理できない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

●各部の部品に亀裂や破損などのダメージがないことを確認してください。

●燃料の点検・補給……22
●エアクリーナーの点検……23
●エンジンオイルの点検・補給……24
●スロットルトリガーの点検……25
●スロットルワイヤーの点検……25
●緊急離脱レバーの点検……25
●ギアケース、ナイロンコードカッターの点検……26
●飛散防護カバーの点検……29
●各締付け部の点検……29

燃料の点検・補給

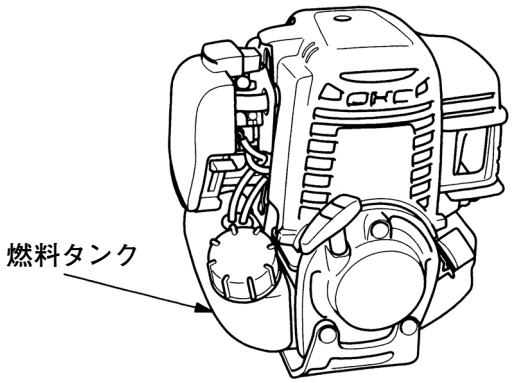
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で補給してください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを、負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全に拭き取り火災と環境に注意して処分してください。**
- **ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。**

点　検

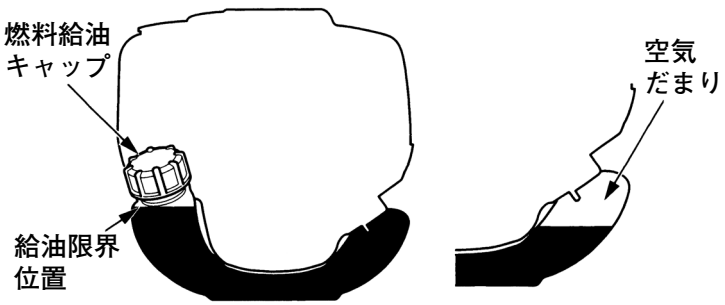
燃料タンクの外側より液面の位置を確認し、燃料の量を確認します。
燃料が少ない場合は、補給してください。



補　給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差を取除きます。燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。空気だまりができた場合は、燃料給油キャップを一旦締め、本機を傾けて空気だまりを解消してから再度補給してください。
- 補給後、燃料給油キャップを取付けます。確実に締付けてください。また燃料給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

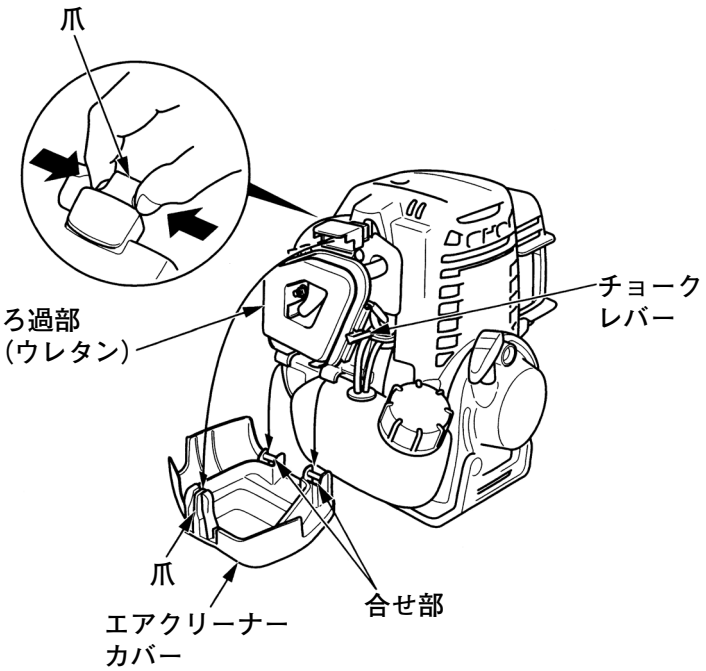


取扱いのポイント

- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**
- **ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。**
- **ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。**

エアクリーナーの点検

1. チョークレバーを上げます。
2. エアクリーナーカバーを取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
3. ろ過部（ウレタン）の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(40頁参照)
4. エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは、下部の2か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。



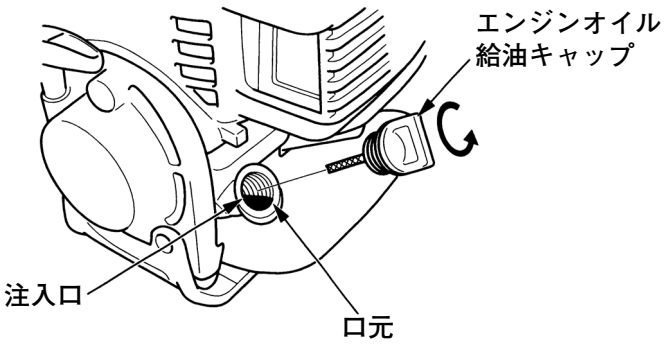
取扱いのポイント

・エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

エンジンオイルの点検・補給

点　検

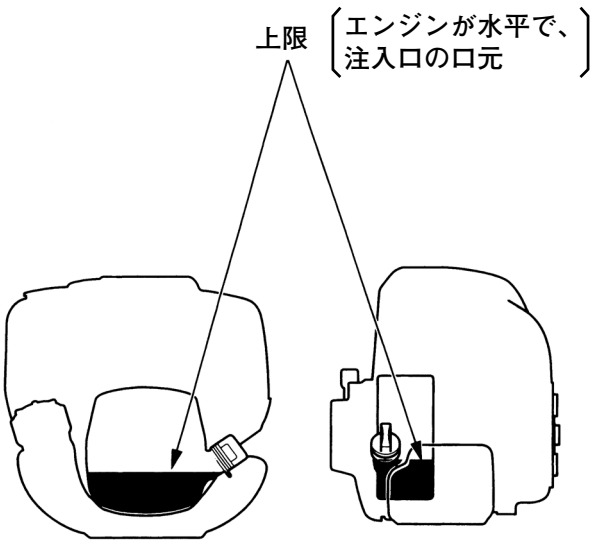
エンジンを水平にしエンジンオイル給油キャップを外します。



- 注入口の口元までオイルがあることを確認します。オイルが少ない場合は、補給してください。
- エンジンオイルの汚れ、変色を点検します。
  汚れや変色が著しい場合は、エンジンオイルを交換してください。(交換時期は37頁、交換方法は38頁参照)

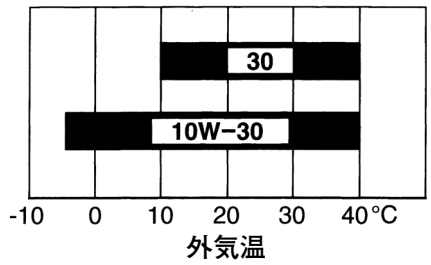
点検後、エンジンオイル給油キャップを取付けます。確実に締付けてください。

補　給



- エンジンオイル給油キャップを外し、新しいエンジンオイルを注入口の口元まで補給します。
- 補給後、エンジンオイル給油キャップを取付けます。確実に締付けてください。
- 推奨オイル
  Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W−30）またはAPI分類SE級以上のSAE10W−30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



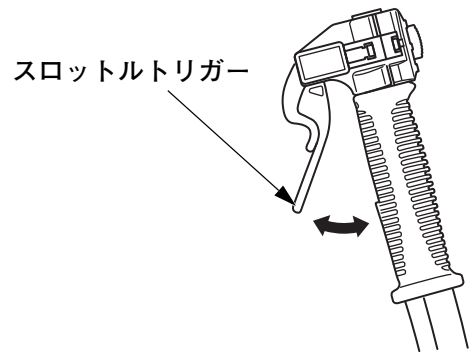
取扱いのポイント

・エンジンオイルの補給はオイル容量が小さいため、少しずつ分け注入してください。
・エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

スロットルトリガーの点検

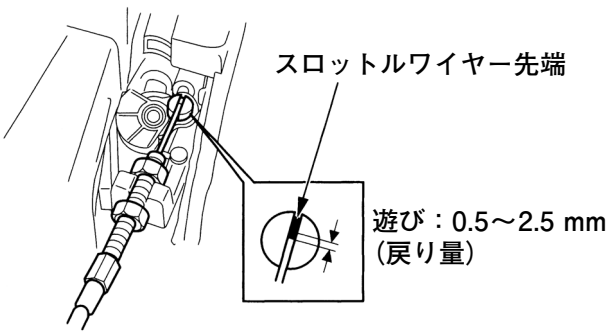
● スロットルトリガーが引っかかりなく、スムーズに作動することを確認します。

異常がある場合は、修理が必要です。お買いあげ販売店にご相談ください。



スロットルワイヤーの点検

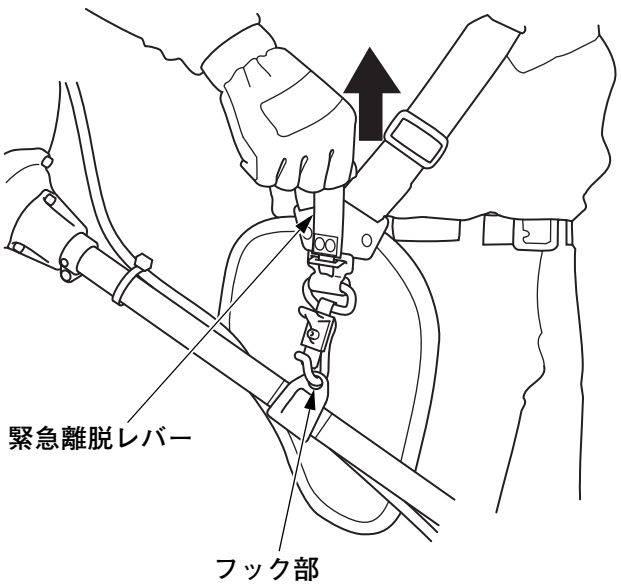
● スロットルトリガーを軽く動かしながら、キャブレター取付部の動き始めとスロットルワイヤーの遊び（戻り量）を点検します。
遊び（戻り量）：0.5～2.5 mm
遊び（戻り量）が規定値を超える場合は、調整してください。(42頁参照)



緊急離脱レバーの点検

1. 肩掛けバンドを身に付けます。
2. 右手で緊急離脱レバーを上方に引きます。
このとき、フック部が肩掛けバンドから外れることを確認します。

フック部が外れない場合は、修理が必要です。
お買いあげ販売店にご相談ください。



ギアケース、ナイロンコードカッターの点検

⚠警告

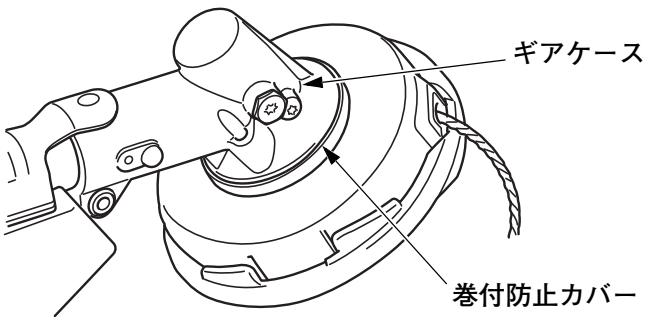
・作業を安全に行うために、ギアケース、ナイロンコードカッターの点検をエンジンをかける前に行ってください。ナイロンコードカッターのゆるみ、ナイロンコードカッターのワレ、欠け、曲がり、過熱による変色、ギアケースやナイロンコードカッターの極端な磨耗、ガタなどを放置すると、ナイロンコードカッターが折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。

・ギアケース、ナイロンコードカッターの点検をするときは、エンジンを停止してから厚手の手袋を装着して行ってください。ナイロンコードカッターでケガをするおそれがあります。

ギアケースの点検

・ギアケースと巻付防止カバーの間に草、ヒモなどが巻きついていないことを確認します。巻きついている場合は取除いてください。

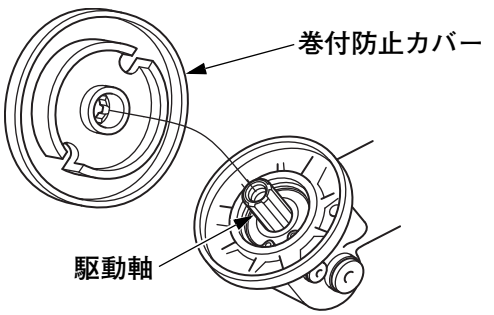
・草、ヒモなどを取除いた後に、ギアケースと巻付防止カバーの間に泥、土などの異物が侵入していないことを確認してください。
侵入している場合、ナイロンコードカッターを取外して「ギアケースの清掃」「ギアケースの磨耗の点検」「駆動軸の点検」を行ってください。



● ギアケースの清掃

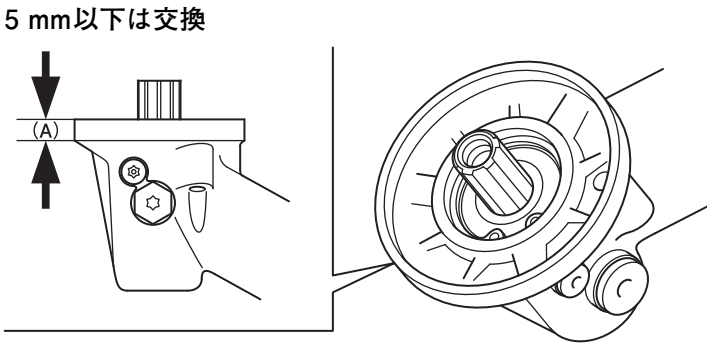
ギアケースと巻付防止カバーの間に草やヒモ、泥、土などの異物がある場合には以下の方法で清掃してください。

1. エンジンが停止していることを確認します。
2. ナイロンコードカッターを取外します。(45 頁参照)
3. 巻付防止カバーを取外します。
4. 巻付防止カバー、駆動軸周りなどから草、ヒモや泥、土などを取除きます。



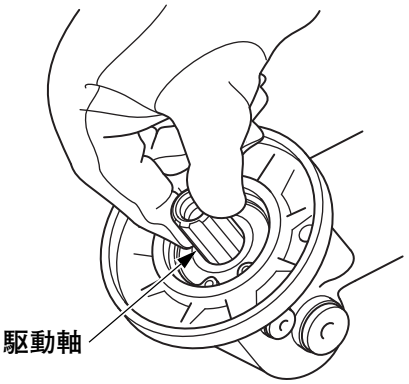
● ギアケース磨耗の点検

(A) 部が規定値以下になったらギアケースの交換が必要です。交換はお買いあげ販売店にご相談ください。ギアケースの (A) 部と、巻付防止カバーは、ギアケースの内部への異物の侵入を防ぐ役割を持っています。



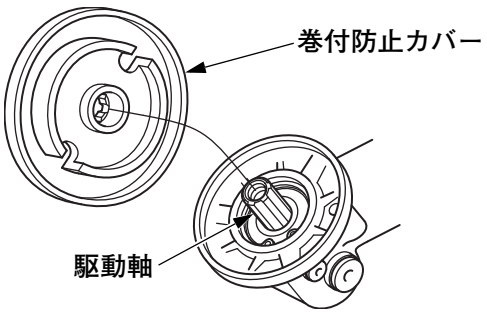
● 駆動軸の点検

駆動軸をつまみ、左右に力を加えて動かし、ガタがないことを確認します。ガタがある場合にはギアケースの交換が必要です。交換はお買いあげ販売店にご相談ください。



「ギアケースの清掃」「ギアケース磨耗の点検」「駆動軸の点検」終了後、巻付防止カバーを組付け、ナイロンコードカッターを取付けます。

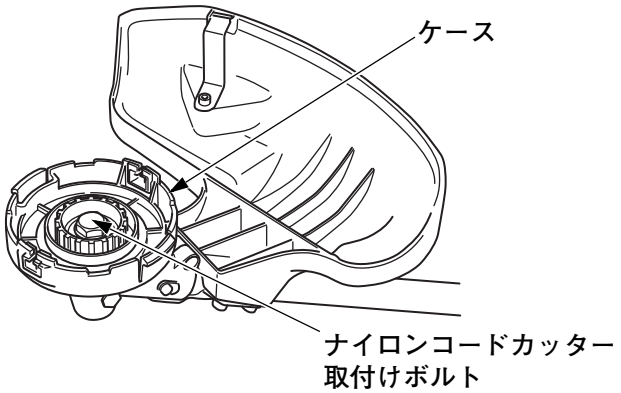
ナイロンコードカッターの取付けかたは、48～51頁を参照しください。



ナイロンコードカッターの点検

● ナイロンコードカッターの取付け状態

ナイロンコードカッターの取付けボルトにゆるみがないことを確認します。
ナイロンコードカッターのカバー、タップノブ、スプールを取外して点検し、点検後に取付けてください。(45頁参照)
ボルトにゆるみがある場合は、ナイロンコードカッター・スパークプラグ用レンチで確実に締付けてください。(50頁参照)
ご自身で正しく締付けられないときは、お買いあげ販売店にご相談ください。



● ナイロンコードカッターの状態

ナイロンコードカッターに破損やゆるみ、ナイロンコードの極端な磨耗がないことを確認します。
ナイロンコードカッターに異常がある場合は、ナイロンコードカッターを交換してください。

≪ナイロンコードカッターの設定≫

ナイロンコードカッターは、本機に設定されたものを使用してください。
・ナイロンコードカッターの設定は、表紙の内側を参照

≪ナイロンコードカッターの交換≫

ご自身でナイロンコードカッターの交換ができない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。
・ナイロンコードカッターの取外しかたは、45頁参照
・ナイロンコードカッターの取付けかたは、48頁参照

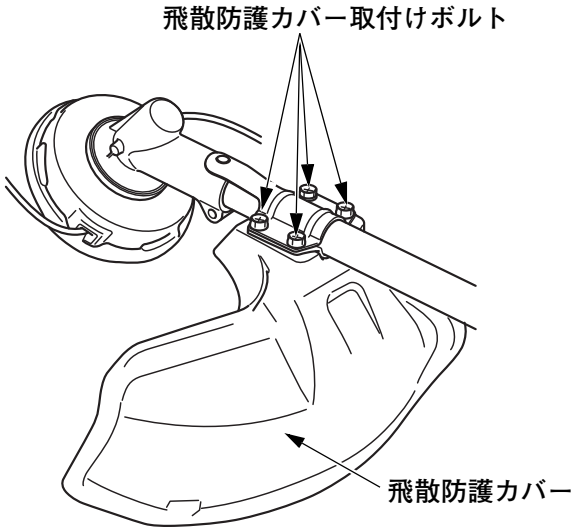
≪ナイロンコードの残量確認≫

ナイロンコードカッターのスプールを取外し、十分な長さのナイロンコードがあることを確認してください。
・スプールの取外しかたは、52頁参照

≪ナイロンコードの交換≫

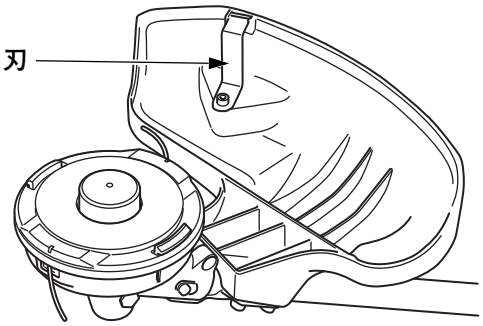
ナイロンコードの送り出しができなくなった場合には、ナイロンコードを交換してください。
・スプールの取外しかたは、52頁参照
・ナイロンコードの巻付けかたは、54頁参照
・スプールの取付けかたは、55頁参照

飛散防護カバーの点検



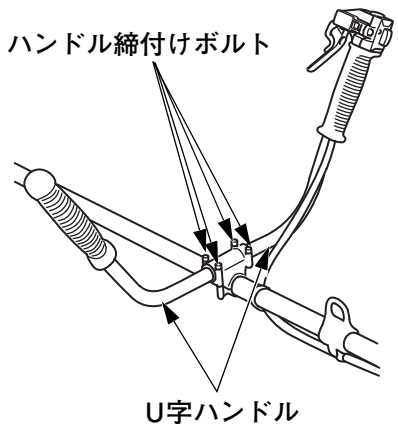
- 飛散防護カバーの取付けボルトにゆるみがないことを確認します。
  ボルトにゆるみがある場合は、スパナで確実に締付けてください。
- 飛散防護カバーに損傷がないことを確認します。
  飛散防護カバーに損傷がある場合は、交換してください。

- 飛散防護カバー内側の刃の切れ味が悪くなり、ナイロンコードが切断できなくなった場合は交換してください。(63頁参照)



各締付け部の点検

- 各ボルトにゆるみがないことを確認します。
  ボルトにゆるみがある場合は、六角レンチで確実に締付けてください。
- ハンドルは締付けボルトにゆるみがないことを確認します。
  ボルトにゆるみがある場合は、六角レンチで確実に締付けてください。



エンジンのかけかた・とめかた

エンジンのかけかた

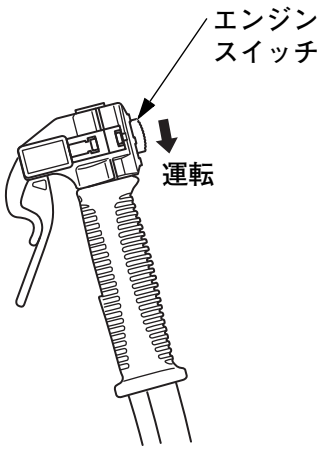
⚠警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

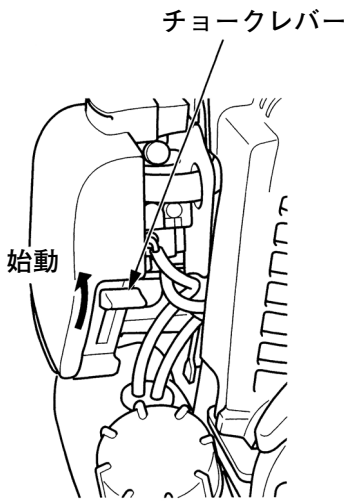
⚠注意

- **本機を肩掛けバンドに吊った状態や空中に持ち上げた状態で、エンジンをかけないでください。本機が思わぬ方向に動き、脚などにケガをするおそれがあります。**
- **エンジンをかけるときは、本機の周囲に十分な広さをとり、人や動物などを近づけないでください。また周囲に障害物がないことを確認してください。**
- **本機を障害物のない場所に置き、ナイロンコードカッターが地面や他の物に触れないことを確認してください。**

1. エンジンスイッチを**"運転"**の位置にします。



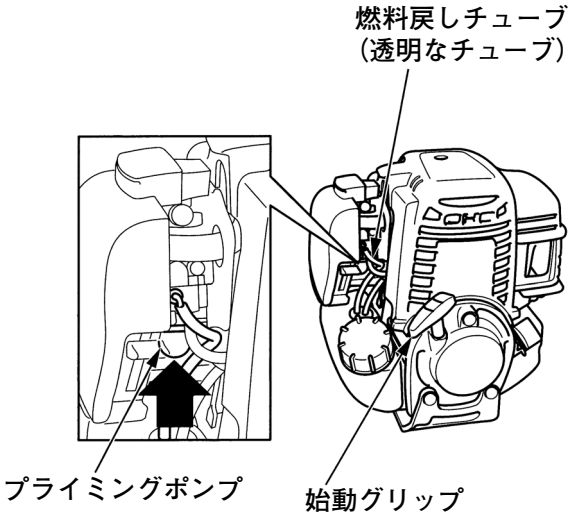
2. 寒いときやエンジンが冷えているときは、チョークレバーを上げ**"始動"**の位置にします。
   - エンジンが暖まっているときは、チョークレバーを下げた位置で始動します。



3. 燃料戻しチューブ（透明なチューブ）の内側で燃料が移動するまでプライミングポンプを押します。

取扱いのポイント

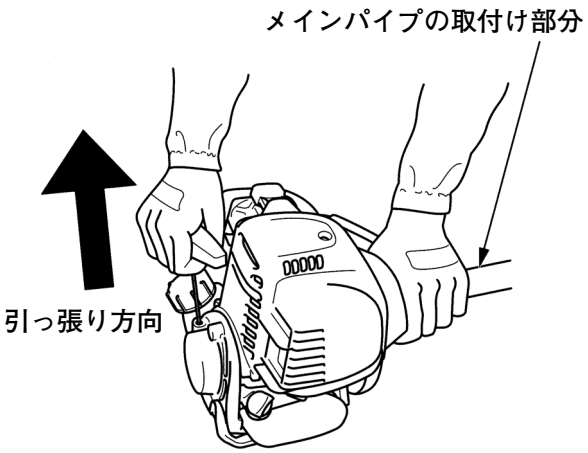
- **プライミングポンプを押しすぎても余分な燃料は燃料タンクに戻ります。**
  押す回数が少ないと始動不良の原因になりますので、十分に押してください。
- **プライミングポンプを押して燃料が移動した後は、エンジンが始動するまでスロットルトリガーを操作しないでください。始動グリップを引く回数が増えたり､始動しにくくなることがあります。**



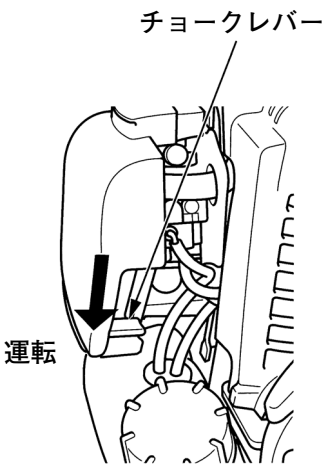
4. メインパイプの取付け部分を左手で握り、本機をしっかり押えます｡この状態で､右手で始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

取扱いのポイント

- **始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。**
- **始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。**
- **運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。**



5. チョークレバーを**"始動"**の位置で始動したときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々にチョークレバーを下げます。
6. 2～3分間暖機運転を行います。



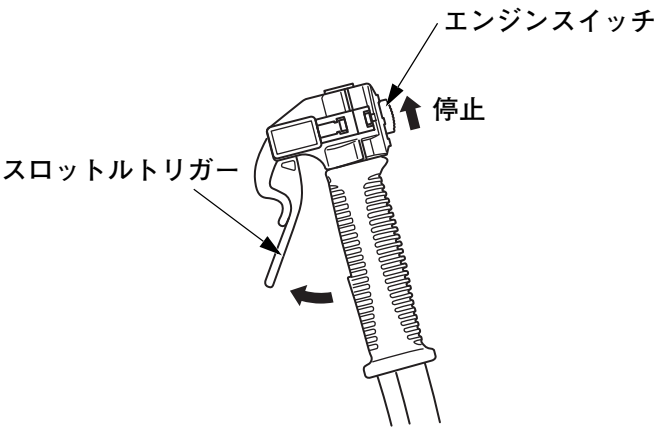
エンジンのとめかた

1. スロットルトリガーから手を離します。
2. エンジンスイッチを **"停止"** の位置にします。
   - ナイロンコードカッターの回転が止ったことを目視で確認してください。

⚠注意

駆動力が切れても、直後はナイロンコードカッターが惰性で回転しています。

- 本機を地面に置く場合は、エンジン停止、ナイロンコードカッターの回転停止を確認してから行ってください。



エンジンがかかりにくいときは

運転後、エンジンを止めてしばらくたった後に再始動しようとすると、燃焼室内の混合気が濃くなり、エンジンがかかりにくくなることがあります。

次の1～3の操作を行って濃い混合気を排出してください。

1. エンジンスイッチを**"停止"**の位置にします。
2. チョークレバーを下げた位置にしてください。
3. スロットルトリガーをいっぱいに握った状態で、始動グリップを3～5回引き、スロットルトリガーから手を離してください。

⚠注意

エンジンスイッチは必ず"停止"の位置にしてください。
"運転"の位置で行うと、エンジンが始動した場合、ナイロンコードカッターが回転し思わぬケガをするおそれがあります。

・「エンジンのかけかた」（30頁参照）の手順に従って、エンジンを始動してください。

・チョークレバーは下げた状態で始動してください。

刈　払　作　業　の　し　か　た

刈払作業を行う前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり、刈払作業にとりかかってください。

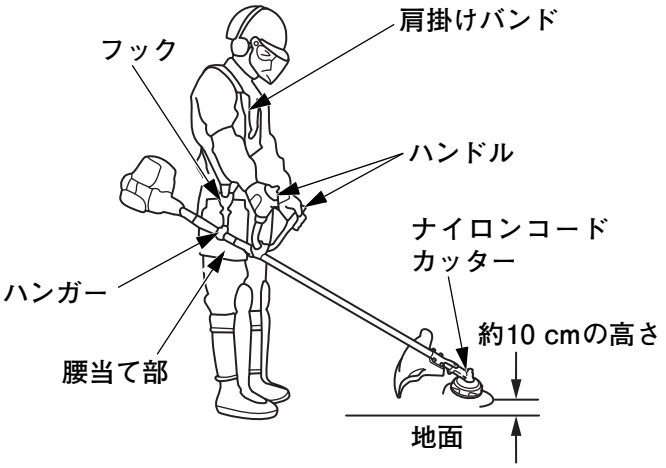
取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にご相談ください。

本機の保持位置の調整

エンジンを停止し、本機の保持位置を調整してください。

1. 肩掛けバンドの腰当て部が身体の右側にくるように、肩掛けバンドを身につけます。(19頁参照)
2. 本機のハンガーを肩掛けバンドのフックに取付けます。
3. 肩掛けバンドの長さを変え、ナイロンコードカッターが地面から約10 cmの高さになるようにします。



⚠警告

本機を正しい位置に保持したときに、ナイロンコードカッターに足がとどく場合は、本機を使用しないでください。ナイロンコードカッターで足をケガするおそれがあります。

- 本機の前後バランスを確認してください。
  エンジンを停止し、本機を正しい位置に保持します。ナイロンコードカッターを地面から約10 cmの高さにし、両手をハンドルからゆるめたとき、ナイロンコードカッターの高さが大きく変化しないことを確認します。
  ナイロンコードカッター側が浮き上り、ナイロンコードカッターがヒザより高くなる場合は、調整が必要です。このままの状態では本機を使用せず、お買いあげの販売店にご相談ください。

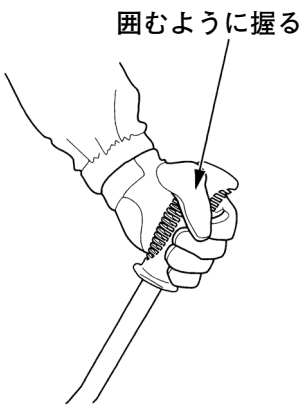
基本的な操作

● 正しい位置に本機を保持し、常に両手でそれぞれのハンドルを握ってください。



⚠注意

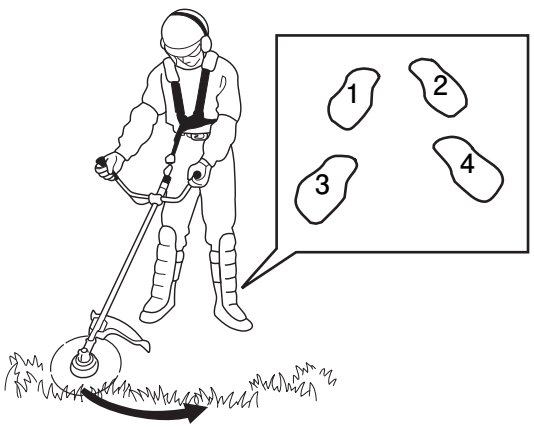
本機を片手で使用しないでください。



● ハンドルの握りかたは、親指と他の指とでハンドルを囲むように握ってください。

● 刈払作業は、メインパイプを振り回さず、腰の移動でナイロンコードカッターを水平に右から左に弧を描くように行ってください。
また体重の移動が安全で容易に行える姿勢をとり、右足から前に進み左足がこれに続くというように、少しづつ前進してください。

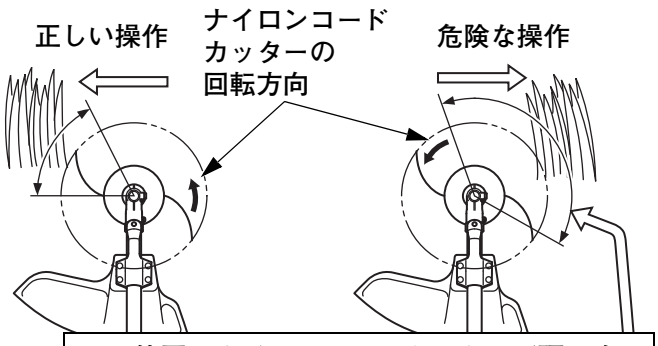
● ナイロンコードカッターの動かし方は、右から左に操作してください。逆に左から右へ操作するとキックバックにより危険な現象が起きます。この操作はしないでください。



取扱いのポイント

ナイロンコードカッターを地面に接触させて刈払作業を行うと磨耗しやすくなります。

● 緩やかな傾斜地で本機を使用する場合、上下方向よりも、なるべく横方向（等高線方向）に行うようにしてください。
急傾斜地はすべりやすく、体のバランスをくずし転倒するおそれがあります。本機を使用しないでください。



⚠注意

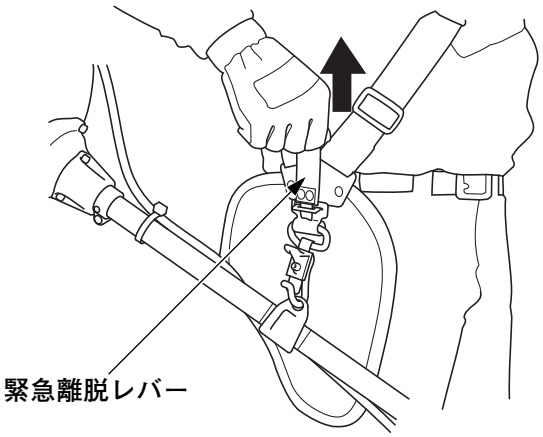
足元に十分注意し、体のバランスをくずすおそれのある場合は、本機を使用しないでください。

この範囲でナイロンコードカッターが硬いものに当たると、反動でナイロンコードカッターが運転者側（自分の方向）へはねかえされます。

取扱いのポイント

作業中は、ナイロンコードカッターが安定した回転を維持するよう、エンジンの回転数を調整してください。エンジンの回転数が低すぎると、クラッチが滑りナイロンコードカッターの回転が下がり、連続した刈払い作業ができなくなります。この状態で作業を続けると、クラッチに損傷を与えるおそれがあり、故障の原因になります。

- 緊急の場合、緊急離脱レバーを引き上げ、本機を身体から離してください。



- 本機で木を切ることはできません。また本機を枝打ち作業に使用しないでください。
- 休憩などで運転を中断するときは、ナイロンコードカッターを下に向けて本機を水平に置いてください。
  気温が高いときに、燃料給油キャップが燃料に浸かった状態で放置すると、燃料タンク内の空気が膨張してキャップから燃料がにじみ出ることがあります。
- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。
- 保管や運搬をする前に、燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
  また、抜いた燃料は引火しやすく、火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。

ナイロンコードの送り出しかた

- ナイロンコードカッターの回転中にタップノブを地面に軽く打ちつけると、ナイロンコードが送り出されます。送り出されたナイロンコードは、飛散防護カバー内側の刃が適切な長さに切断します。
  タップノブを地面に打つときは、4,500 rpm以下の低回転にて行ってください。



- 飛散防護カバー内側の刃の切れ味が悪くなり、コードが切断できなくなった場合は交換してください。（63頁参照）

定　期　手　入　れ　を　行　い　ま　し　ょ　う

お買いあげいただきました刈払機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検項目＼点検時期＜注3＞		作業前点検	1か月目または初回10時間運転目	3か月毎または25時間運転毎	6か月毎または50時間運転毎	1年毎または100時間運転毎	2年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検	○						24頁
	交換		○		○			38頁
エアクリーナー（空気清浄器）	点検	○						23頁
	清掃			○＜注1＞				40頁
点火プラグ	点検、調整					○		41頁
	交換						○	41頁
エンジン冷却フィン	点検、清掃				○			44頁
クラッチシュー	点検				○＜注2＞			―――
ギアケース	点検、清掃	○						26頁
ギアケースの磨耗	点検				○＜注2＞			26頁
ギアケースのグリース	給油	1年毎または30時間毎＜注2＞						―――
ナイロンコードカッターの磨耗、曲り、破損、締付けボルト	点検	○						28頁
飛散防護カバーの破損状態	点検	○						29頁
緊急離脱レバー	点検	○						25頁
各締付け部（ボルト・ナット類）	点検	○						29頁
スロットルトリガー	点検	○						25頁
スロットルワイヤーの遊び	点検	○						25頁
アイドルスピード	点検、調整					○＜注2＞		―――
吸入・排気弁のすき間	点検、調整					○＜注2＞		―――
燃焼室	清掃	300時間運転毎＜注2＞＜注4＞						―――
燃料フィルター	清掃					○		43頁
燃料タンク	清掃					○		44頁
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）＜注2＞						43頁
オイルチューブ	点検	2年毎（必要なら交換）＜注2＞						―――

＜注1＞　ホコリの多い場所で使用した場合は、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

＜注2＞　これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

＜注3＞　点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。

＜注4＞　表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点　　検　・　整　　備

点検・整備を行う前に作業内容を確認してください。ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店へご相談ください。

⚠警告

点検・整備は平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないようにエンジンスイッチが停止になっていることを確認してください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。
交換時期、オイル容量を守りましょう。

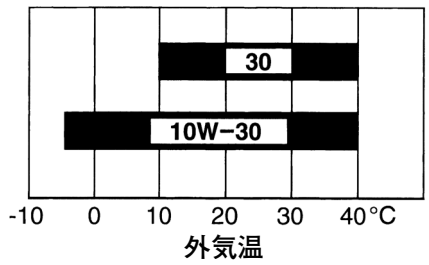
⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドなどをするおそれがあります。

《推奨オイル》

Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W−30）またはAPI分類SE級以上のSAE10W−30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



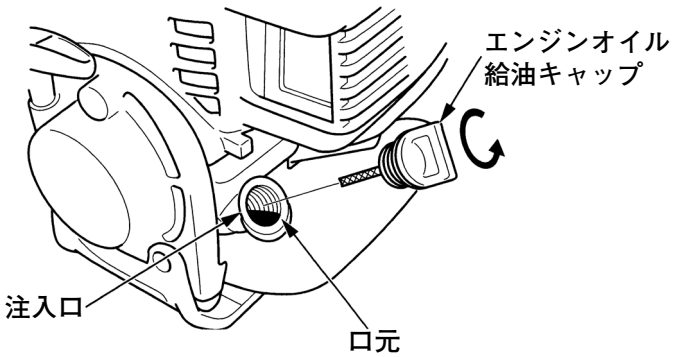
《規定量》 0.10 L

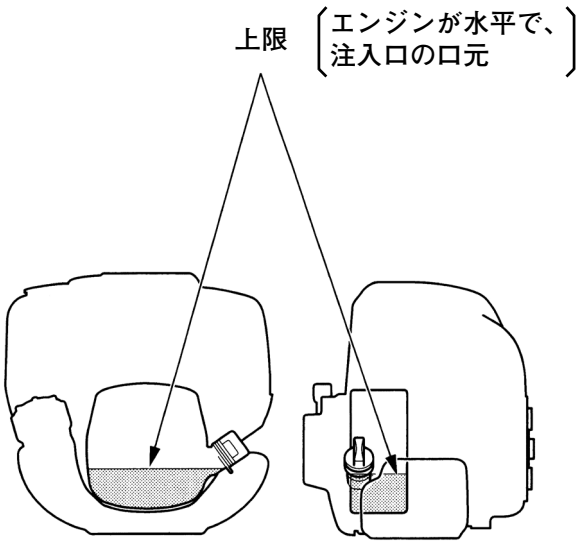
《交換のしかた》

1. エンジンスイッチを**"停止"**の位置にします。
2. 燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
3. エンジンオイル給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。オイルは、容器に受けてください。



4. エンジンオイルが完全に抜けたら本機を元に戻し水平に置いてください。
5. エンジンオイルを注入口の口元まで注入します。
6. 注入後、エンジンオイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。





取扱いのポイント

- **交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。**
- **エンジンオイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。**
- **エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **エンジンオイルは規定量以上入れると、回転不調や白煙が出ることがあります。入れ過ぎないように注意してください。**

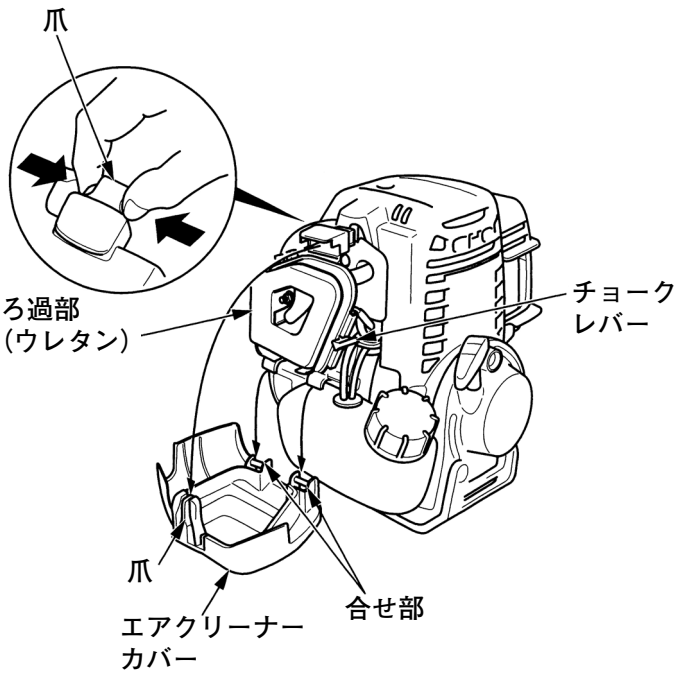
エアクリーナーの清掃

エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

⚠警告

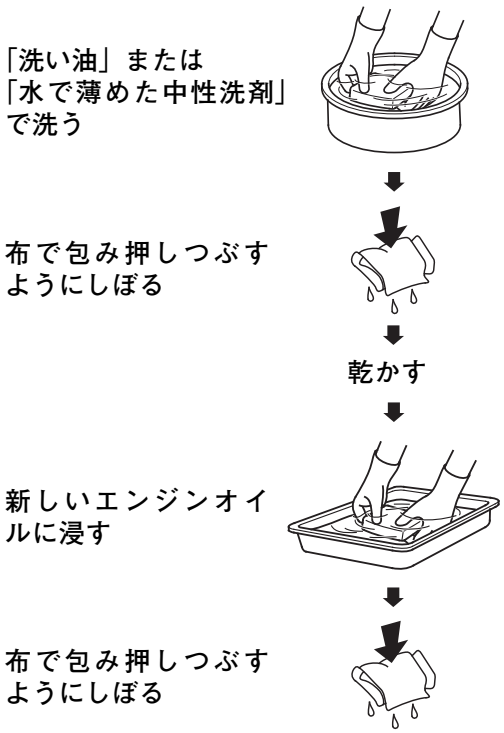
エアクリーナーの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

1. チョークレバーを上げた状態で、エアクリーナーカバーを取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し、上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
2. ろ過部（ウレタン）を洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞って乾かします。エンジンオイルに浸したあと固く絞ってから取付けます。
3. ろ過部(ウレタン)をエアクリーナーに取付けます。
4. エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは、下部の2か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。



取扱いのポイント

- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**
- **エアクリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。**
- **ろ過部にオイルをつけすぎないように注意してください。**
- **不要になった洗い油はゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。不明な場合は洗い油をお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。**



点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

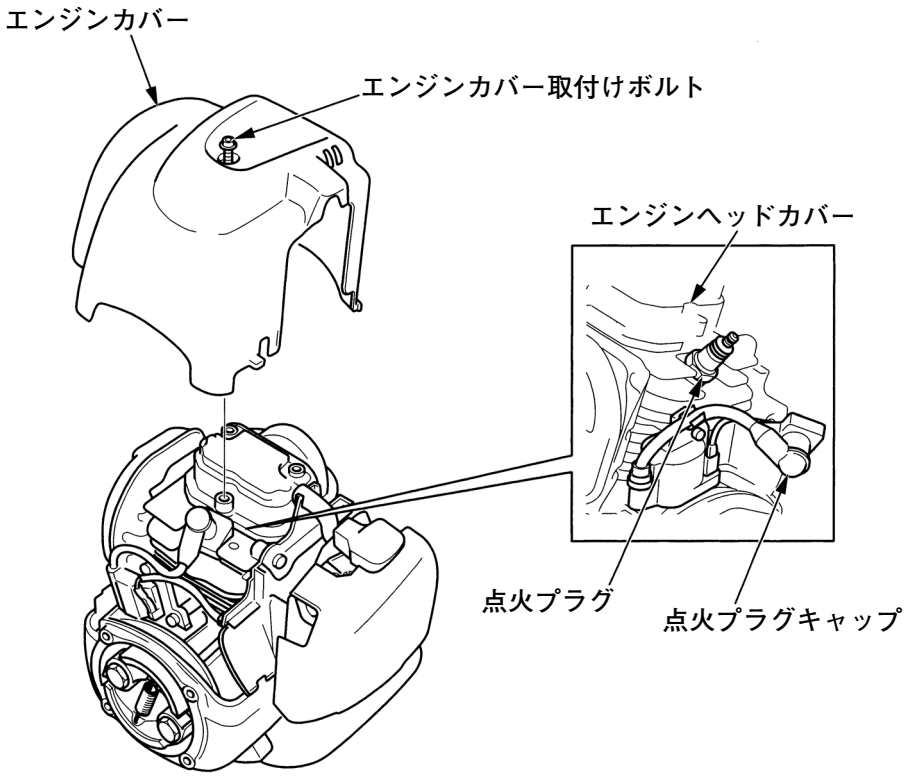
エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

《点検》

1. 六角レンチでエンジンカバー取付けボルトをゆるめ、エンジンカバーを取外します。
2. 点火プラグキャップを外しプラグレンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

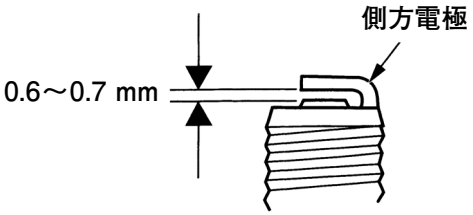
● プラグクリーナーが無いときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落してください。

4. 点検後、エンジンカバーを確実に取付けてください。



《調整》

1. 側方電極をつめ､火花すきまを0.6～0.7 mmに調整します。
2. 調整後、エンジンカバーを確実に取付けてください。



《標準プラグ》

CM5H（NGK）

取扱いのポイント

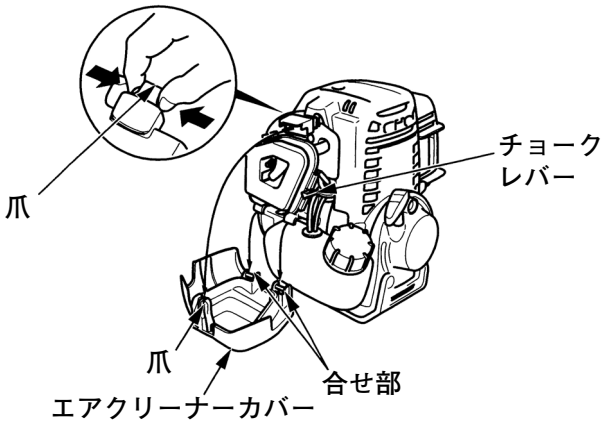
・故障の原因となるので標準プラグ以外、使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。

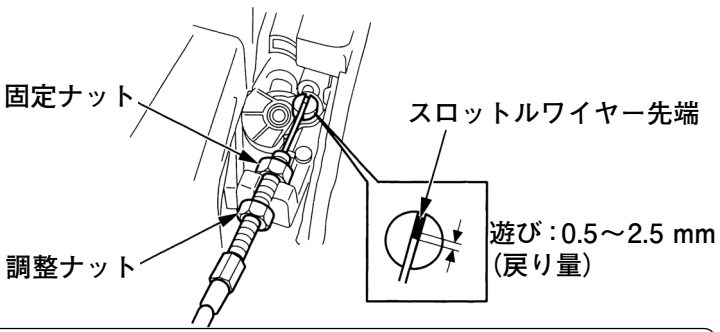
・点検調整後は点火プラグキャップを、エンジンヘッドカバーに対して垂直にし、確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

スロットルの調整

スロットルワイヤーの遊び（戻り量）を正しく調整してください。

1. チョークレバーを上げた状態で、エアクリーナーカバーを取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し、上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
2. スロットルケーブルの固定ナットをスパナでゆるめます。
3. スロットルワイヤー先端の遊び（戻り量）を確認しながら、調整ナットを回して遊び（戻り量）を規定値にします。
   遊び：0.5～2.5 mm
4. 固定ナットをスパナで確実に締付けます。
5. エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは、下部の2か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。



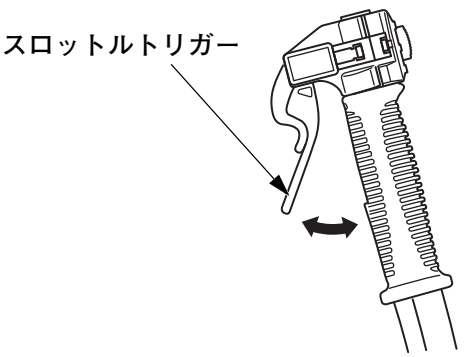


取扱いのポイント

・エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。

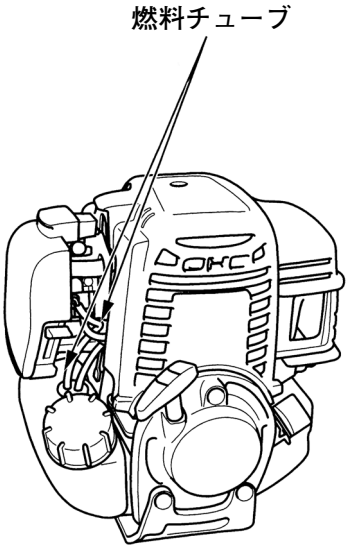
・エアクリーナーカバーを装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

● 調整後、スロットルトリガーが引っかかりなく、スムーズに作動することを確認してください。
次に、再度スロットルワイヤー先端の遊びが規定値であることを確認してください。
異常がある場合、お買いあげ販売店にご相談ください。



燃料チューブの点検

燃料チューブに劣化、ひび割れ、燃料漏れがないことを確認します。異常がある場合は交換が必要です。交換はお買いあげの販売店で実施してください。



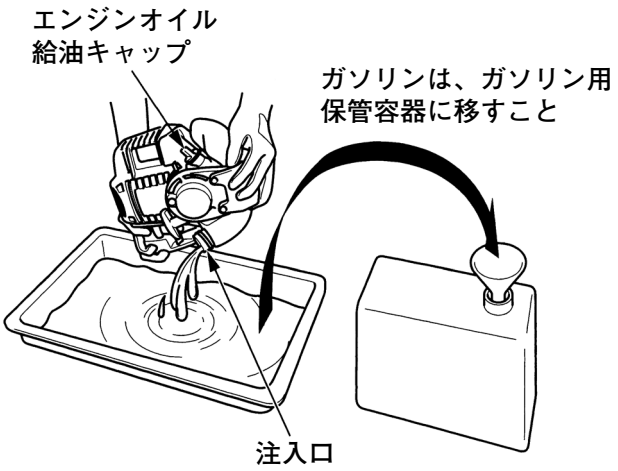
燃料フィルターの清掃

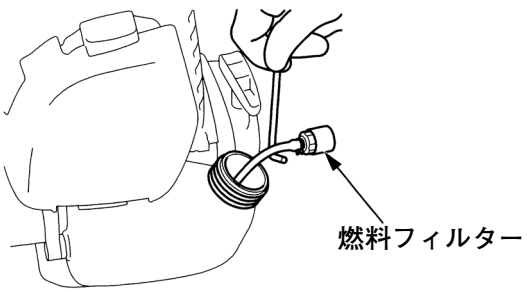
燃料フィルターが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
点検を行うときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全に拭き取り火災と環境に注意して処分してください。

1. エンジンオイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、燃料を抜きます。燃料は容器に受けてください。
3. 燃料フィルターを針金などを使い、注入口から引き出します。
4. 燃料フィルターの表面が汚れていないか点検します。燃料フィルターの表面が汚れている場合は、洗い油で洗って汚れを落します。
   燃料フィルターの汚れが著しい場合は、交換してください。
5. 燃料フィルターを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。





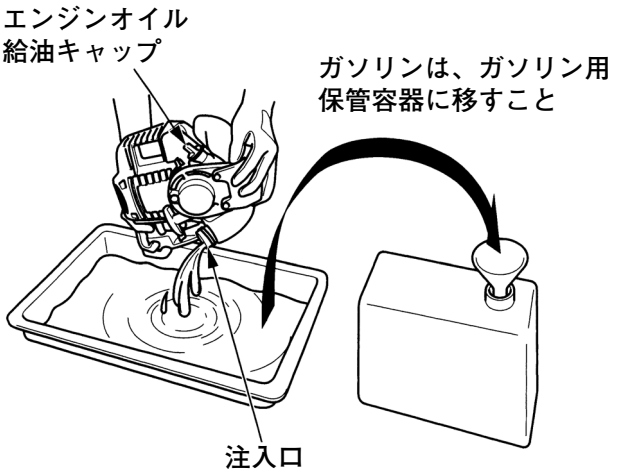
燃料タンクの清掃

燃料タンク内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
点検を行うときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全に拭き取り火災と環境に注意して処分してください。

1. エンジンオイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、燃料を抜きます。燃料は、容器に受けてください。
3. 燃料フィルターを針金などを使い、注入口から引き出します。
4. 燃料タンク内部を洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
5. 燃料フィルターを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。



取扱いのポイント

不要になった洗い油はゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。不明な場合は洗い油をお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。

エンジン冷却フィンの点検・清掃

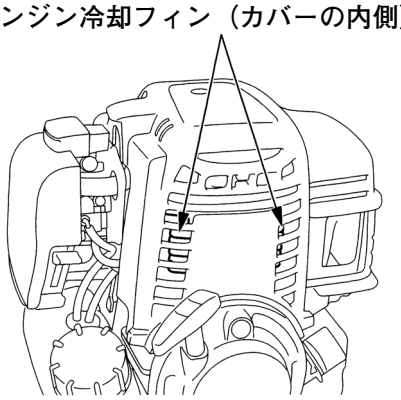
《点検》

エンジン冷却フィンに草、芝、泥などによる詰まりがないことを目視で確認します。

《清掃》

詰まりがある場合は、六角レンチでエンジンカバー取付けボルトをゆるめ、エンジンカバーを取外し清掃してください。

エンジン冷却フィン（カバーの内側）



ナイロンコードカッターの交換

ナイロンコードカッターの交換を行う前に作業内容を確認してください。ご自身で作業できない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

≪ナイロンコードカッターの取外しかた≫

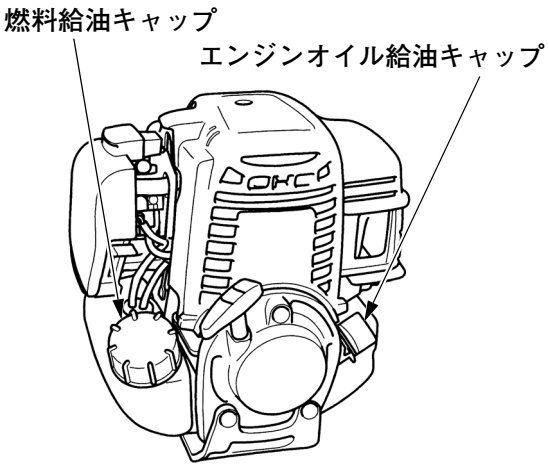
⚠警告

ナイロンコードカッターの取付け・取外しは、

・「エンジン停止状態」「厚手の手袋を着用」で行ってください。ナイロンコードカッターでケガをするおそれがあります。

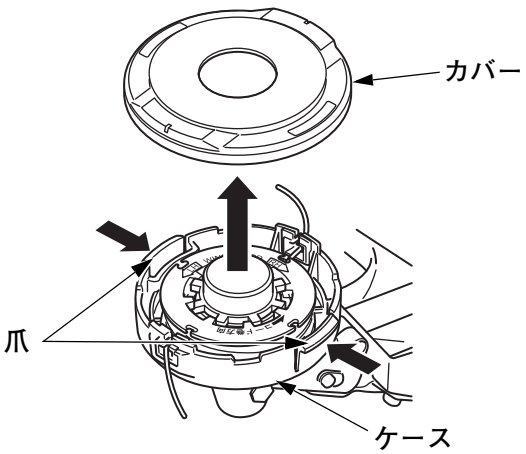
・「燃料給油キャップが確実に取付けられている状態」で行ってください。燃料がこぼれ危険です。

1. 作業前の確認
   - ・エンジンが停止していること
   - ・燃料給油キャップが確実に取付けられていること
   - ・エンジンオイル給油キャップが確実に取付けられていること
   - ・作業者は厚手の手袋を着用していること

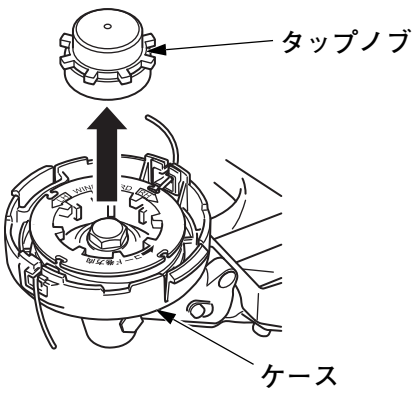


2. 本機の置き方を「ナイロンコードカッター取付け部」が上を向くようにします。(本機使用時の上下逆状態で置く)

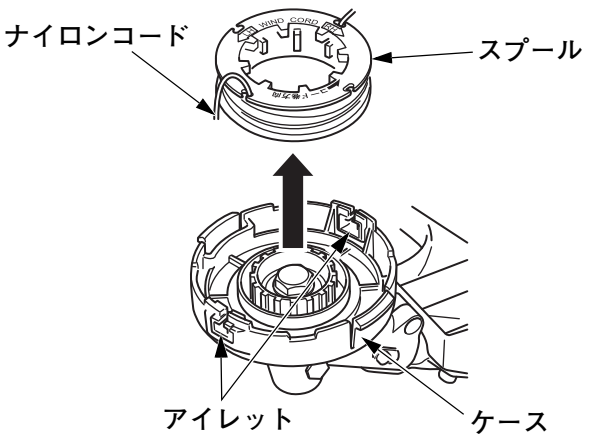
3. ナイロンコードカッターのカバーを取外します。
取外しは、ケースの外周面にある2つの爪を押し、爪の固定を外した後に行います。



4. タップノブをケースから取外します。
タップノブを取外す際、内部のスプリングが飛び出る可能性がありますので、紛失しないよう注意してください。



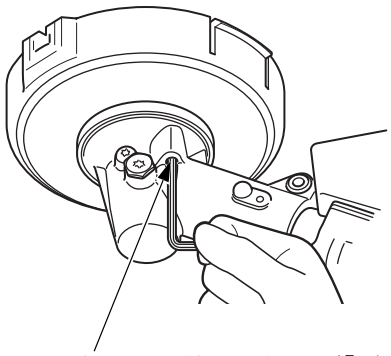
5. ナイロンコードをアイレットから外した後に、スプールをケースから取外します。



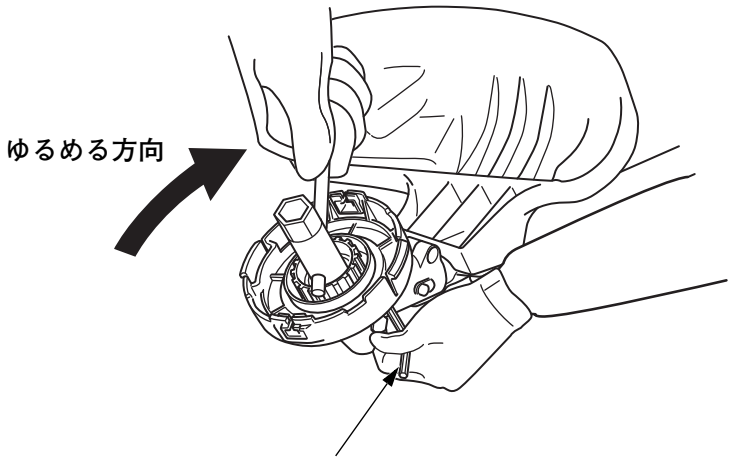
6. 「駆動軸の回り止め」し、ボルト（左ネジ）を取外します。
・工具：・付属の六角レンチ
・付属のナイロンコードカッター用レンチと
レンチハンドル

≪左ネジ≫

しまる  ゆるむ



「駆動軸の回り止め」用の六角レンチ差込み位置（「ギアケースの穴」）



六角レンチを差込み「駆動軸の回り止め」を行う
「ギアケースの穴」に付属の六角レンチを差込みながら、駆動軸を手でゆっくり回して、止まる位置にします。六角レンチを差込み続けてください。

≪ナイロンコードカッターの取付けかた≫

ナイロンコードカッターの取付けは、「締付け強さ」を正しく行ってください。正しく行わないと、本機の損傷、思わぬ事故の原因となることがあります。

「≪ナイロンコードカッターの取外しかた≫」(45 頁参照）の手順3～4に従って、新しいナイロンコードカッターをあらかじめ分解しておいてください。

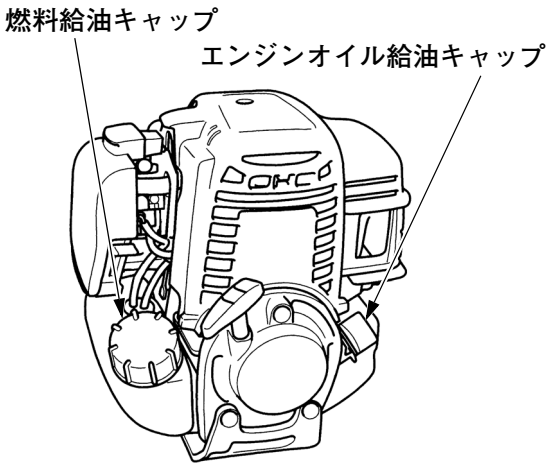
⚠警告

ナイロンコードカッターの取付け・取外しは、

・「エンジン停止状態」「厚手の手袋を着用」で行ってください。ナイロンコードカッターでケガをするおそれがあります。

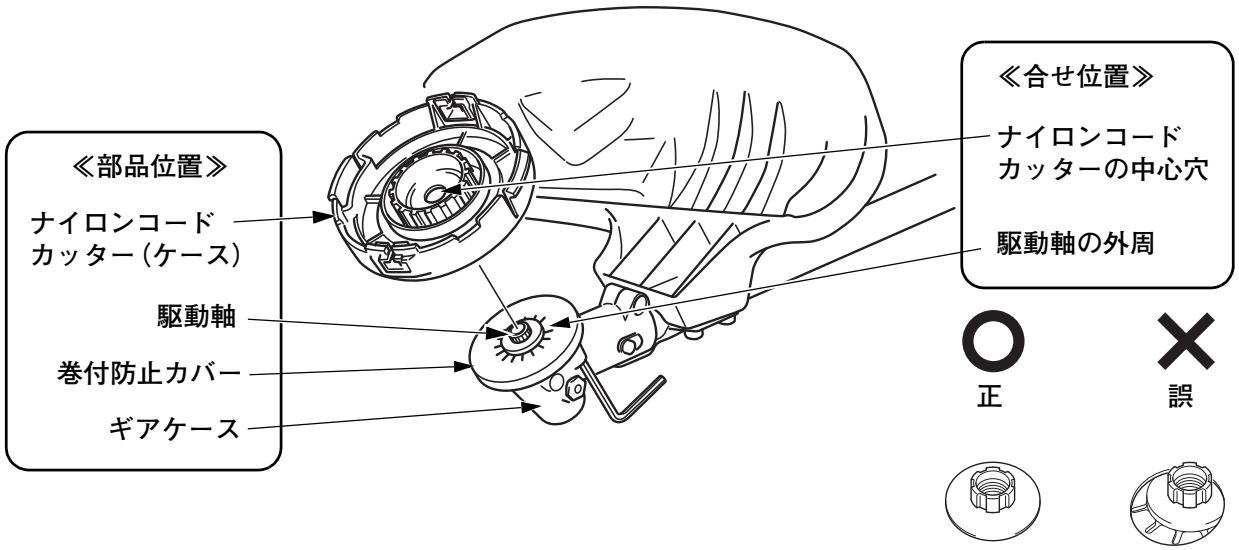
・「燃料給油キャップが確実に取付けられている状態」で行ってください。燃料がこぼれ危険です。

1. 作業前の確認
   - ・エンジンが停止していること
   - ・燃料給油キャップが確実に取付けられていること
   - ・エンジンオイル給油キャップが確実に取付けられていること
   - ・作業者は厚手の手袋を着用していること

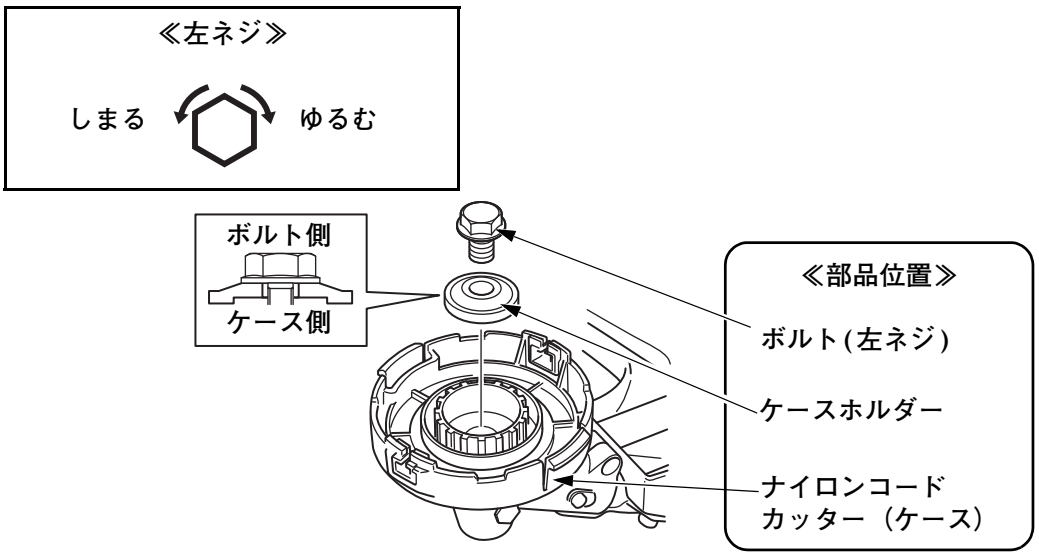


2. 本機の置き方を「ナイロンコードカッター取付け部」が上を向くようにします。(本機使用時の上下逆状態で置く)

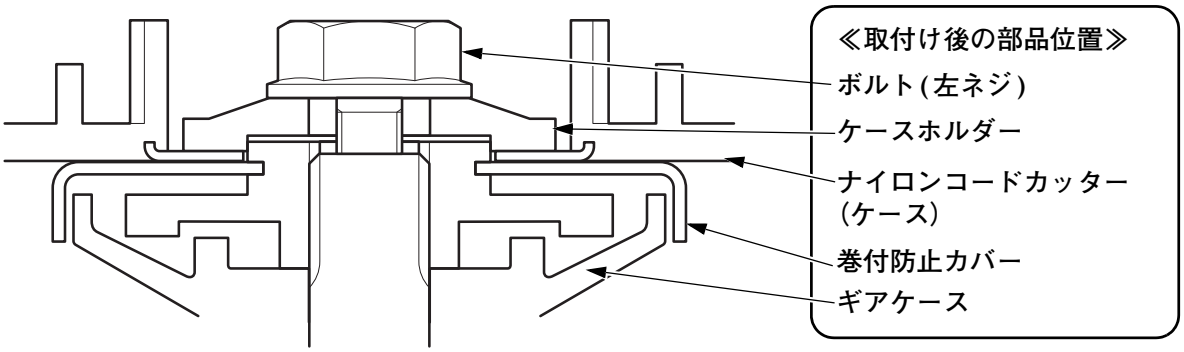
3. ナイロンコードカッターのケースを図の≪合せ位置≫に合わせます。



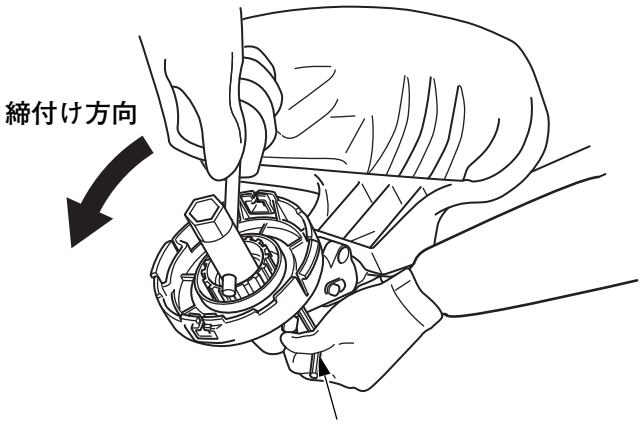
4. 【仮付け】 手でボルト(左ネジ)を仮付けします。
・必要な場合「駆動軸の回り止め」します。(50頁参照)



5. 【仮締め】 ナイロンコードカッターのケースを駆動軸に合わせた状態で、ボルト(左ネジ)を手で仮締めします。
・必要な場合「駆動軸の回り止め」をします。



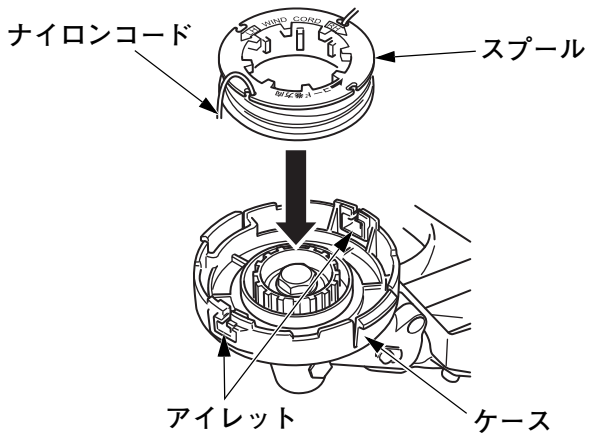
6. 【締付け】「駆動軸の回り止め」し、ボルト(左ネジ)を締付けます。
・工具：・付属の六角レンチ
・付属のナイロンコードカッター用レンチとレンチハンドル
・トルクレンチをご用意ください
・締付けトルク：16.7～19.6 N·m (1.7～2.0 kgf·m)
・締付けトルクが「強過ぎる」場合、駆動軸などが破損し、思わぬ事故の原因となることがあります。電動インパクトドライバーなどの「強過ぎる」工具を使用したり、体重をかけるなど「強過ぎる」締付けを行わないでください。
・締付けトルクは、「締付けの強さ」を表します。



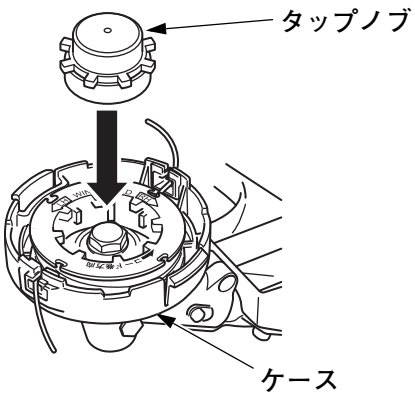
六角レンチを差込み「駆動軸の回り止め」
「ギアケースの穴」に付属の六角レンチを差込みながら、駆動軸を手でゆっくり回して、止まる位置にします。六角レンチを差込み続けてください。

7. 「駆動軸の回り止め」の六角レンチを外します。

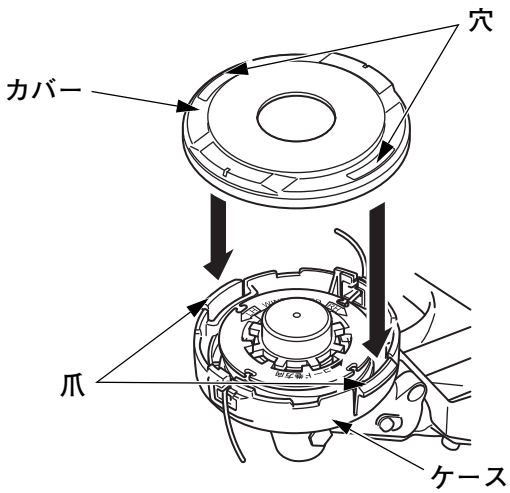
8. スプールをケースに取付けます。
ナイロンコードはアイレットに通してください。



9. タップノブをケースに取付けます。
・タップノブの取付けは、タップノブをケースの奥まで差し込んで行ないます。
・タップノブの内側にスプリングが組付けられています。スプリングも合わせて取付けてください。



10. カバーをケースに取付けます。
カバーの取付けは、ケースの外周面にある2つの爪をカバーの穴に合わせ、カチリと音がするまで確実に組み付けてください。



取扱いのポイント

カバーがケースに確実に取付けられていることを確認してください。

ナイロンコードの交換

ナイロンコードの送り出しができなくなった場合には、ナイロンコードを交換してください。

≪スプールの取外しかた≫

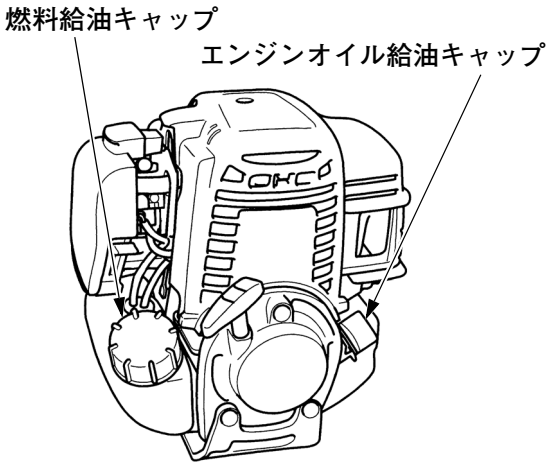
⚠警告

スプールの取付け・取外しは、

・「エンジン停止状態」「厚手の手袋を着用」で行ってください。ナイロンコードカッターでケガをするおそれがあります。

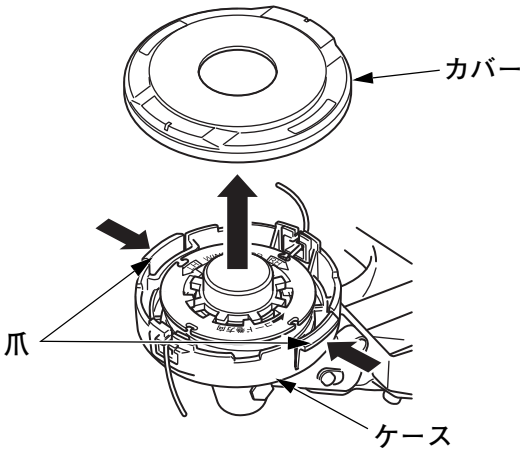
・「燃料給油キャップが確実に取付けられている状態」で行ってください。燃料がこぼれ危険です。

1. 作業前の確認
   - ・エンジンが停止していること
   - ・燃料給油キャップが確実に取付けられていること
   - ・エンジンオイル給油キャップが確実に取付けられていること
   - ・作業者は厚手の手袋を着用していること

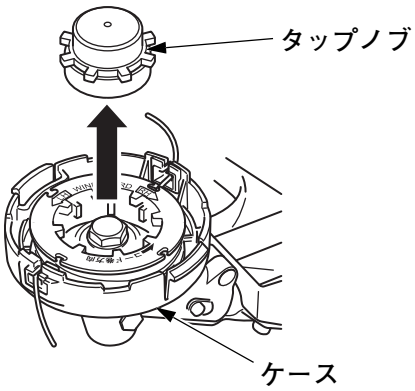


2. 本機の置き方を「ナイロンコードカッター取付け部」が上を向くようにします。(本機使用時の上下逆状態で置く)

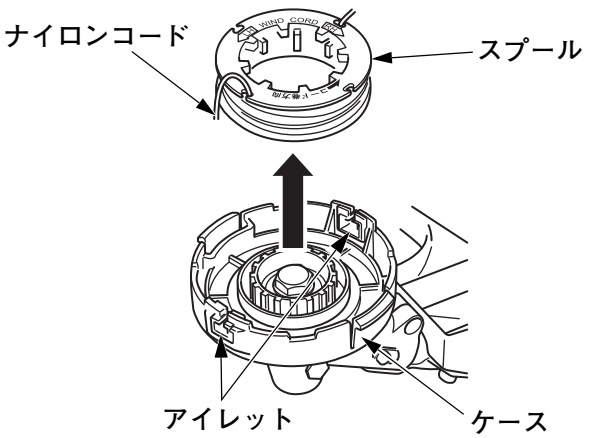
3. ナイロンコードカッターのカバーを取外します。
取外しは、ケースの外周面にある2つの爪を押し、爪の固定を外した後に行います。



4. タップノブをケースから取外します。
タップノブを取外す際、内部のスプリングが飛び出る可能性がありますので、紛失しないよう注意してください。



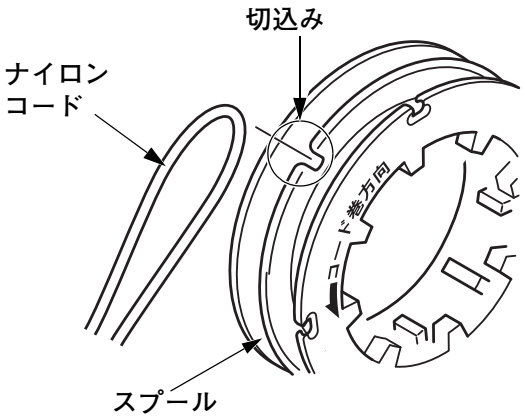
5. ナイロンコードをアイレットから外した後に、スプールをケースから取外します。



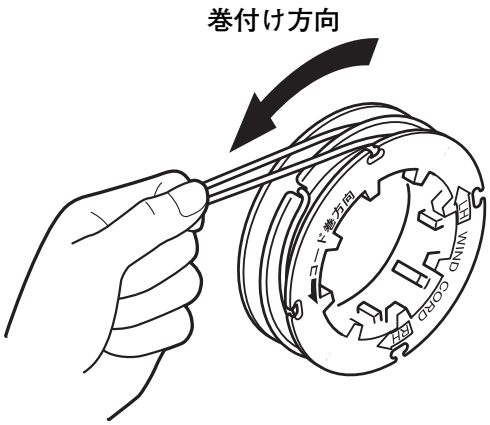
≪ナイロンコードの巻付けかた≫

1. スプールに残っているナイロンコードを取外します。

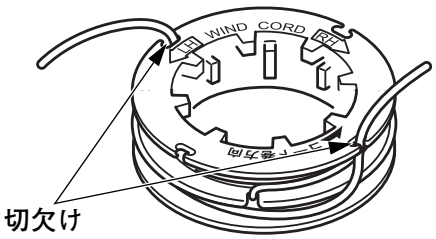
2. 新しいナイロンコードを半分に折曲げ、曲げた箇所をスプールの切込みに通します。



3. ナイロンコードをスプールに巻付けます。
   ・ナイロンコードの巻付けは、スプールに表記された巻付け方向に従って行います。
   ・巻付けた面に凹凸ができないように、均等にしっかりと巻付けます。



4. ナイロンコードの両端をスプール外周の切欠けに通して固定します。



≪スプールの取付けかた≫

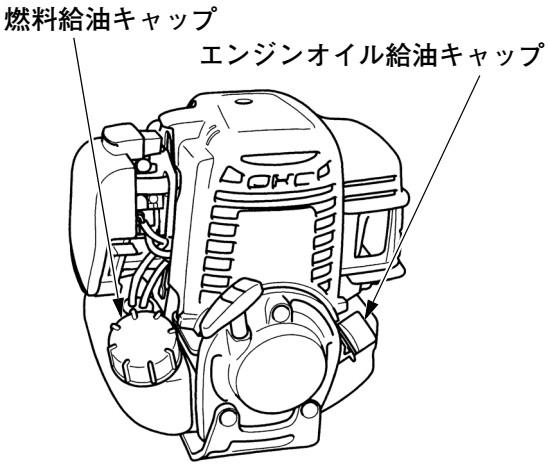
⚠警告

スプールの取付け・取外しは、

・「エンジン停止状態」「厚手の手袋を着用」で行ってください。ナイロンコードカッターでケガをするおそれがあります。

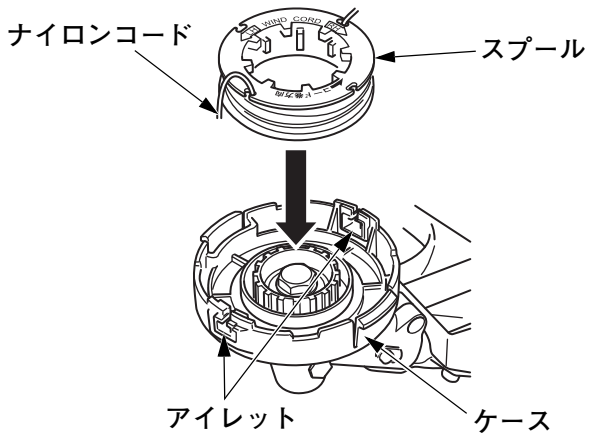
・「燃料給油キャップが確実に取付けられている状態」で行ってください。燃料がこぼれ危険です。

1. 作業前の確認
   - ・エンジンが停止していること
   - ・燃料給油キャップが確実に取付けられていること
   - ・エンジンオイル給油キャップが確実に取付けられていること
   - ・作業者は厚手の手袋を着用していること

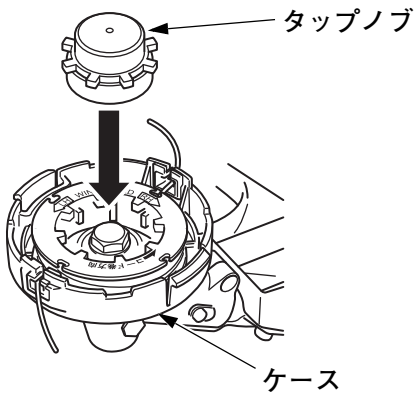


2. 本機の置き方を「ナイロンコードカッター取付け部」が上を向くようにします。(本機使用時の上下逆状態で置く)

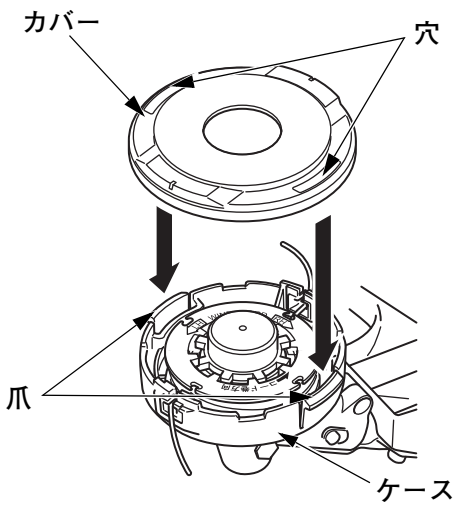
3. スプールをケースに取付けます。
ナイロンコードはアイレットに通してください。



4. タップノブをケースに取付けます。
・タップノブの取付けは、タップノブをケースの奥まで差し込んで行ないます。
・タップノブの内側にスプリングが組付けられています。スプリングも合わせて取付けてください。



5. カバーをケースに取付けます。
カバーの取付けは、ケースの外周面にある2つの爪をカバーの穴に合わせ、カチリと音がするまで確実に組み付けてください。



取扱いのポイント

カバーがケースに確実に取付けられていることを確認してください。

長 期 間 使 用 し な い と き の 手 入 れ

長期間運転しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

・燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠警告

手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めてください。誤ってエンジンがかからないようにエンジンスイッチが " 停止 " になっていることを確認してください。

1 本機の表面から、グリース、オイル、汚れ、土の固まりなどの付着物を取除いてください。

2 燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜いてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

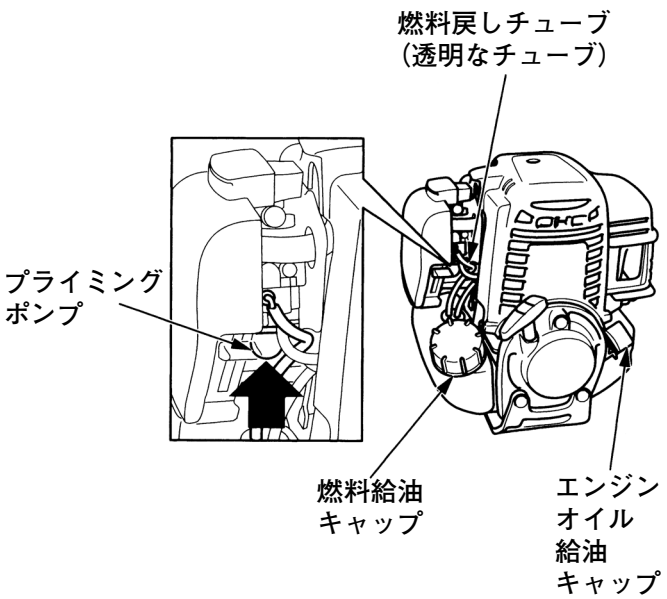
・換気の良い場所で行ってください。

・火気を近づけないでください。

・ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全に拭き取り火災と環境に注意して処分してください。

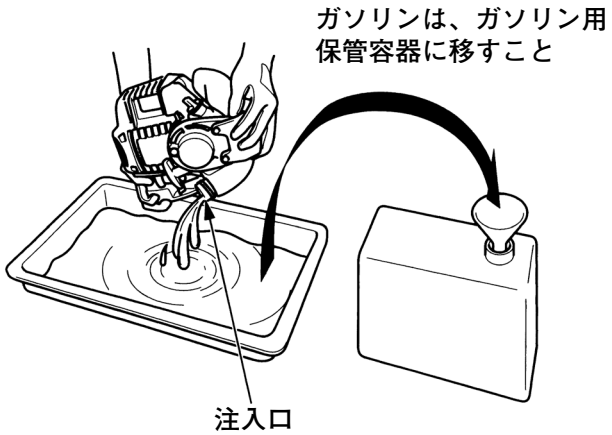
《抜きかた》

1. エンジンオイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を給油キャップ側に傾け、燃料を抜きます。燃料は容器に受けてください。
3. 燃料給油キャップを取付けます。
4. 燃料戻しチューブ（透明なチューブ）内の燃料がなくなるまで、プライミングポンプを押します。
5. 再度、燃料給油キャップを外し、本機を給油キャップ側に傾け、燃料を抜きます。燃料は容器に受けてください。
6. 燃料給油キャップを確実に締付けます。



取扱いのポイント

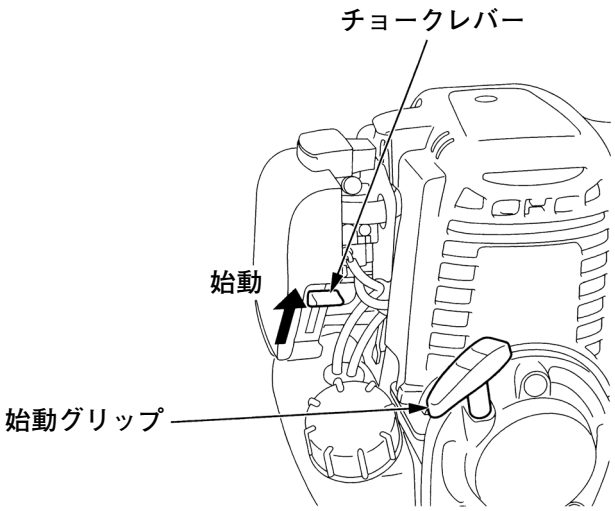
次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。



3 **エンジンオイルを交換してください。**（交換方法は、38頁参照）

4 **エアクリーナーを清掃してください。**（清掃方法は、40頁参照）

5 **始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。**



6 **チョークレバーを上げ、" 始動 " の位置にしてください。**

7 **子供の手の届かない場所で湿気、ホコリの少ない所に、シート等をかけて保管してください。**

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

不具合の内容	点検（故障診断）		原因（状態）	対　応
エンジンが始動しない	始動手順	30～31頁の手順を守っていない	エンジンスイッチが"**停止**"	"**運転**"にする
			プライミングポンプを押していない	6～7回押す
			始動グリップの引きかたが遅い	勢いよく引く
	燃料タンク内のガソリン	ない	燃料切れ	補給（22頁参照）
		ある	燃料フィルターの目づまり	清掃（43頁参照）
			燃料系の目づまり	販売店で点検整備
			キャブレターの異常	販売店で点検整備
	点火プラグキャップ	外れてる	点火プラグキャップの点火プラグへの取付け不良	確実に取付ける
	点火プラグ	電極の不良	汚れ、濡れ	点検（41頁参照）
			火花すきまの異常	調整（41頁参照）
			その他の点火プラグ異常	交換
エンジンが加速しない	エアクリーナーのろ過部	汚れてる	ろ過部の目づまり	清掃（40頁参照）
	燃料フィルター	汚れてる	燃料フィルターの目づまり	清掃（43頁参照）
	スロットルワイヤー	遊びが大きい	調整不良	調整（42頁参照）
	―――	―――	他のスロットル系の異常	販売店で点検整備
	―――	―――	駆動系の異常	販売店で点検整備
ナイロンコードカッターが回転しない	―――	―――	駆動系の異常	販売店で点検整備
本機が異常に振動する ↓ ただちにエンジン停止	ナイロンコードカッター	ワレ、曲り、磨耗している	ナイロンコードカッターのバランスが異常	交換
		取付け状態が異常	取付けボルトのゆるみ	確実に取付ける（48～51頁参照）
	―――	―――	駆動系の異常	販売店で点検整備
ナイロンコードカッターの回転が止まらない ↓ ただちにエンジン停止	スロットルワイヤー	遊びがない	調整不良	調整（42頁参照）
	―――	―――	他のスロットル系の異常	販売店で点検整備
	―――	―――	クラッチの異常	販売店で点検整備
エンジンが止まらない ↓ チョークレバーを上げる	―――	―――	電気系の異常	販売店で点検整備

主　　要　　諸　　元

モ　デ　ル		UMK435（UTJT）
型　式　名		ホンダ　UMK435U
（ハンドル形式）		U字ハンドル
（スロットル形式）		トリガースロットル
全　長		1,860 mm
全　幅		635 mm
全　高		435 mm
全装備質量［重量］		8.0 kg
乾燥質量［重量］ ISO 11806（※1）		6.6 kg
機関（エンジン）	名　称	GX35T
	種　類	強制空冷　4ストローク　OHC単気筒　ガソリン機関
	排　気　量	35.8 cm^3
	内径×行程	39.0×30.0 mm
	エンジン最大出力/回転速度 (SAE J1349に準拠＊)	1.0 kW（1.4 PS）/7,000 rpm
	オイル容量	0.10 L
	燃料タンク容量	0.63 L
	気化器	ダイヤフラム式
	点火方式	トランジスターマグネト点火
	点火プラグ	CM5H （NGK）

※1 乾燥質量：ナイロンコードカッター及び飛散防護カバーを外した状態で、エンジンオイル、ガソリンが入っていないときの質量です。

＊：ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して、7,000 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。
量産エンジンの出力は、この数値と変わることがあります。完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数及び使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

この諸元は予告なく変更することがあります。

クラッチの種類		遠心クラッチ	
ナイロンコードカッター	種類	T＆Gナイロン	
	直径	444 mm	
	回転数 (エンジン回転数 7,000 rpm時)	5,250 rpm	
ナイロンコードカッター停止方法		スロットルトリガーから手を離すとエンジン回転数が低下し、 遠心クラッチが切れる。	
ハンドル振動※2	ハンドル部位	左手側	右手側
	ハンドル振動加速度	5.0 m/s^2	5.0 m/s^2
	3軸合成値 (本体ラベル値)	5.0 m/s^2	

※２:周波数補正振動加速度実効値の３軸合成値を表します。
この表示はISO 22867に準拠して、エンジン回転数がアイドルのときと9,310 rpmでのハンドル振動測定値から算出された値であり、実際に使用される回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

この諸元は予告なく変更することがあります。

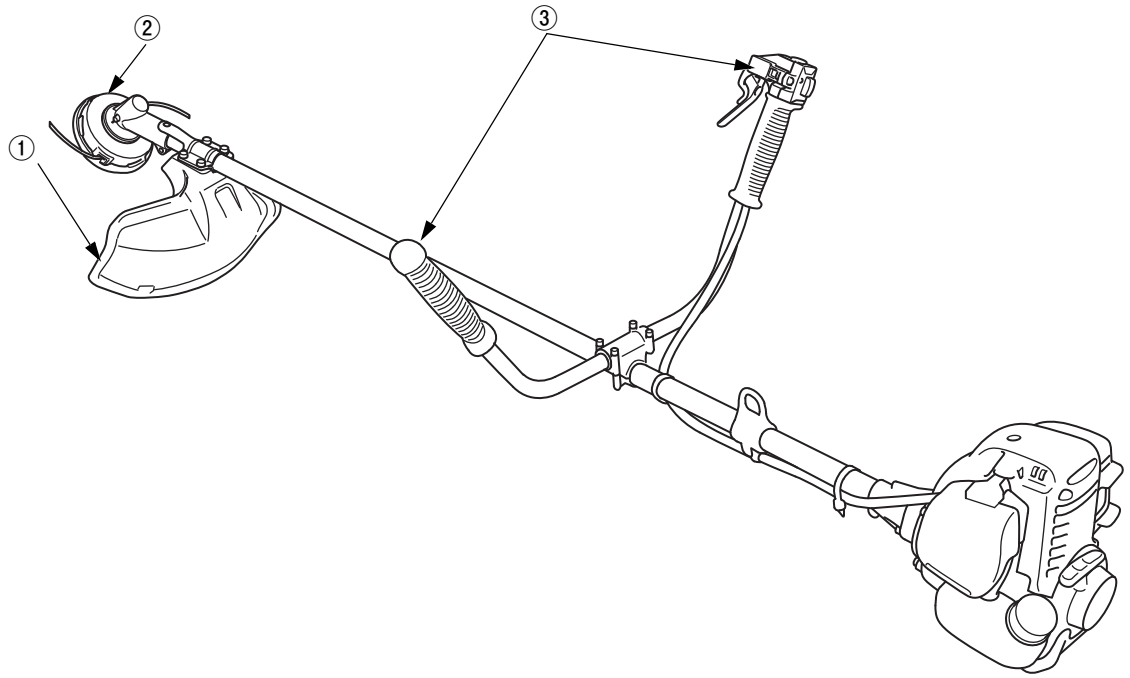
同　梱　部　品　の　組　付　け　か　た

本機は、同梱部品の初期組付けが必要です。本機を使用する前に、初期組付けを行ってください。

・事前に作業内容を確認してください。ご自身で組付けできない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

同梱部品	個数	初期組付け	参照頁
飛散防護カバー	1	①	63頁
ホルダー (上側)	1		
ホルダー (下側)	1		
ボルト	4		
ナイロンコードカッター	1	②	48頁
右側U字ハンドル	1	③	64頁
左側U字ハンドル	1		
アッパーホルダー	1		
ボルト	4		
ソケットボルト	1		
バンド	2		
肩掛けバンド(両肩用)	1	−	16頁
保護メガネ	1	−	16頁
工具袋	1	−	16頁
レンチ	1		
レンチハンドル	1		
六角レンチ	1		
スパナ	1		
同梱部品袋	1	−	16頁

≪「初期組付け」の組付け位置≫

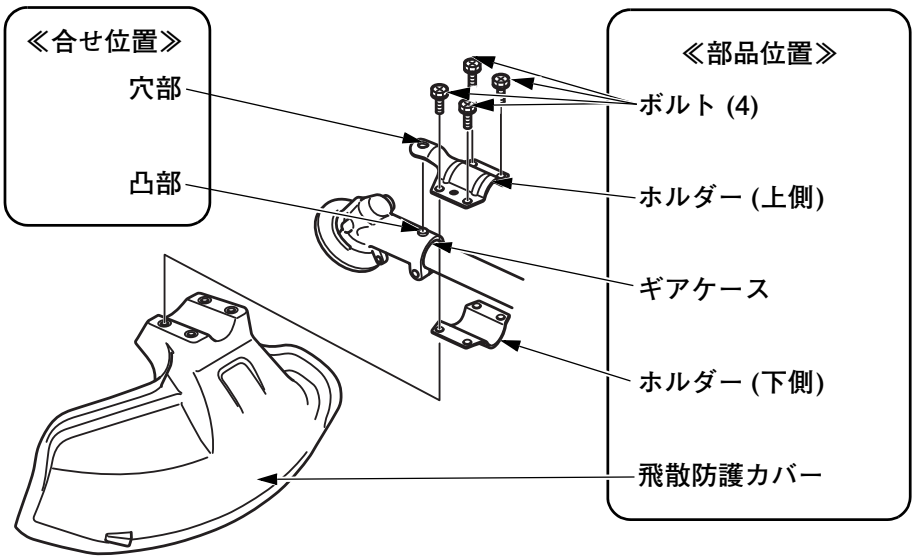


飛散防護カバーの組付け

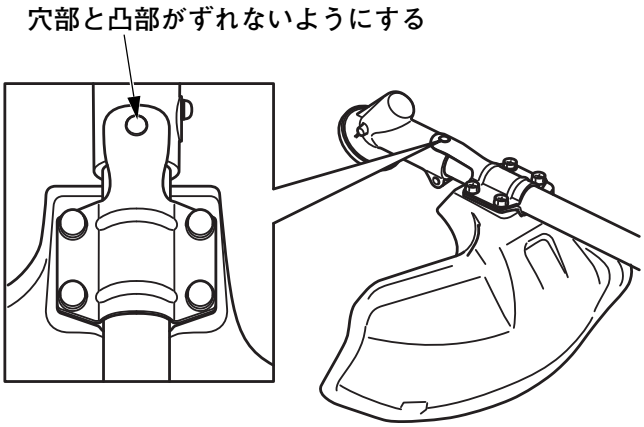
⚠警告

飛散防護カバーを正しい位置に取付けないと、刈払作業時、回転部からの飛散物が作業者に当たるおそれがあります。組付け手順に従い飛散防護カバーを正しい位置に取付けてください。

1. 本機の置き方を「ナイロンコードカッターを取付ける部分」が下を向くようにします。
   （本機の上下は、62頁の図のようにします）
2. 図の≪部品位置≫でボルト4本を仮付けます。
3. 「ホルダー(上側)の穴部」を「ギアケースの凸部」に合せます。



4. 穴部と凸部がずれないようにしながら、ボルト 4本を締付けます。
   ・工具：・付属のスパナ
   ・トルクレンチをご用意ください。
   ・締付けトルク：6.0～8.0 N.m
   (0.61～0.81 kgf･m)



ナイロンコードカッターの組付け

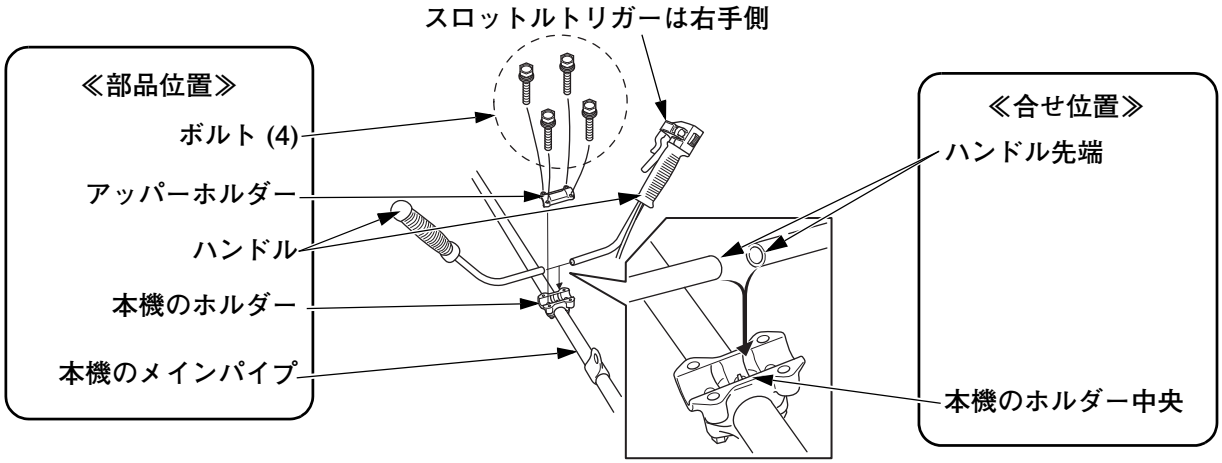
組付けの手順は、「ナイロンコードカッターの取付けかた」を参照してください。(48～51頁)

U字ハンドルの組付け

ハンドルは、スロットルトリガーが右手前にくるように組付けます。

● ハンドル本体の組付け

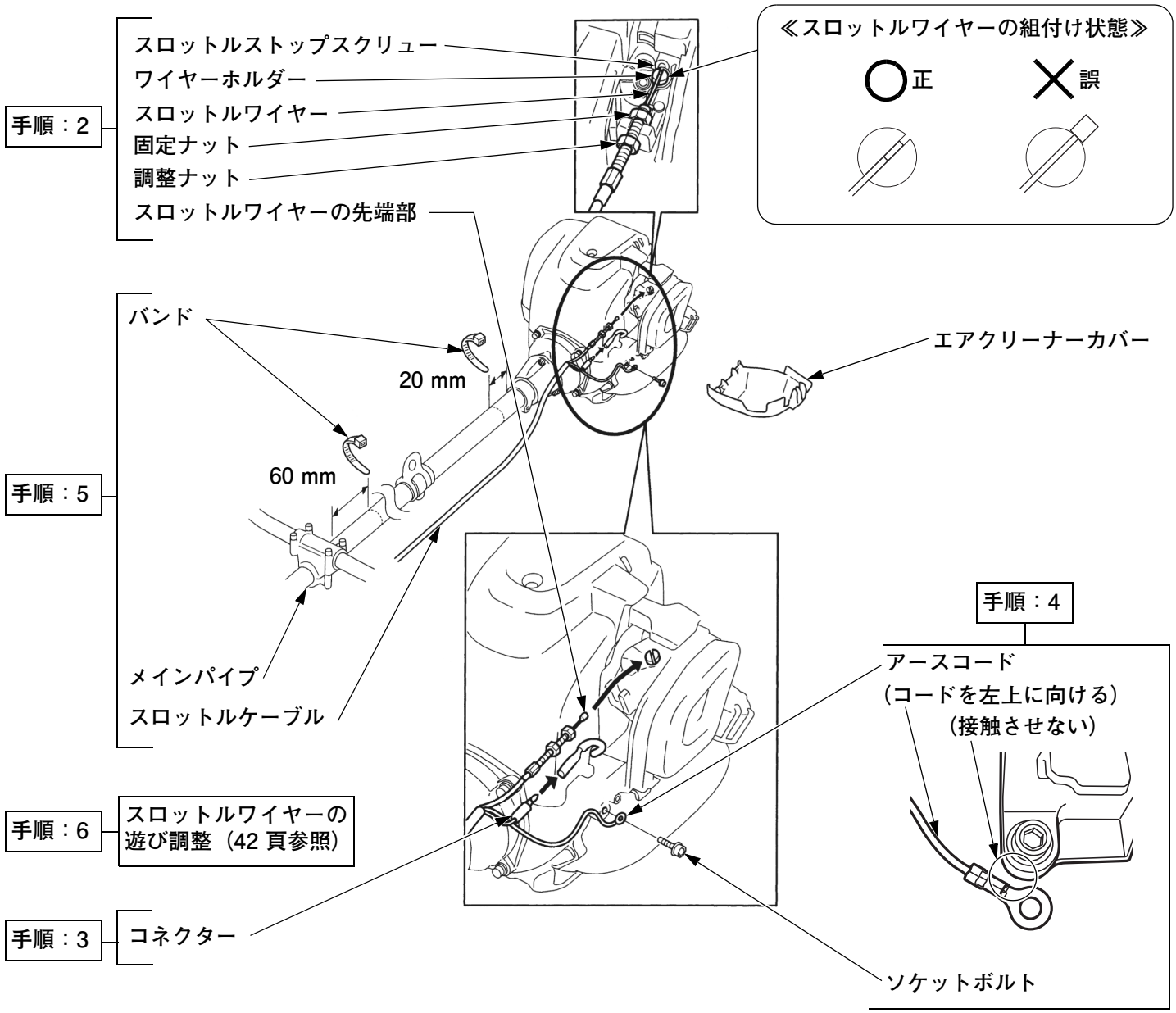
1. ナイロンコードカッター取付け部を下に向け、本機を置きます。
2. ハンドル先端の凸部をホルダー中央に合せ、アッパーホルダーを組付け、ボルト4本を仮付けます。



3. 本機を横から見て、ハンドルをメインパイプに対し直角にし、ボルト4本を締付けます。
   - 工具：・付属の六角レンチ
     ・トルクレンチをご用意ください
   - 締付けトルク：4.4～6.0 N·m (0.45～0.60 kgf·m)

● **ケーブル・配線の接続**

1. チョークレバーを上げた状態で、エアクリーナーカバーを取外します。(40 頁参照)
2. スロットルケーブルをキャブレターに組付けます。
   ①ワイヤーホルダーの「穴の大きな側」をスロットルストップスクリューの方向に向けます。
   ②スロットルケーブルをメインパイプの下側を通し、スロットルワイヤー先端部をワイヤーホルダーに組付けます。
   ③スロットルケーブルを調整ナットと固定ナットで本機に仮付けます。
3. コードコネクターを接続します。
4. アースコードを取付けます。(アースコードを図の向きにして、付属のソケットボルトで固定します)
5. バンド2 本を取付け、スロットルケーブルを固定します。(図の位置で固定します)
6. スロットルワイヤーの遊びを調整します。(42 頁参照)
7. エアクリーナーカバーを取付けます。(40 頁参照)



―― メ　　モ ――

―― メ　　モ ――

―― メ　　モ ――

―― メ　　モ ――

HONDA
The Power of Dreams

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通フリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010
（イイフレアイオ）

受付時間　　9:00～12:00　　13:00～17:00
〒351-0188　　埼玉県和光市本町 8－1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 製品名、タイプ名
② ご購入年月日
③ 販売店名

30VK4800
00X30-VK4-8000

XXXX.XXXX.XX
©2015 本田技研工業株式会社